

Hug

移乗サポートロボット

Hug L1-02

取扱説明書



AR2438 Ver 1.00

安全にご使用いただくために

必ず専門の医師や理学療法士、作業療法士などにご相談のうえご使用ください。

このたびは、移乗サポートロボット Hug L1 をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
ご使用前に取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

株式会社 F U J I

目次


| | |
|-------------------------------|-----------|
| 安全上のご注意 | 1 |
| 本体に関する注意事項 | 2 |
| バッテリーに関する注意事項 | 8 |
| 充電器に関する注意事項 | 10 |
| 安全に使用するための服装 | 12 |
| Hug L1 のご紹介 | 13 |
| 使用目的 | 13 |
| 主な特長 | 13 |
| 対象となる方 | 13 |
| 使用できる環境 | 13 |
| 付属品 | 13 |
| 各部の名称 | 14 |
| 本体 | 14 |
| リモコン | 15 |
| Hug L1 をお使いになる前に | 16 |
| バッテリーを充電する | 16 |
| バッテリーの残量を確認する | 20 |
| 膝あての位置を調整する | 21 |
| Hug L1 の使いかた | 23 |
| 起立アラームと節電モードについて | 25 |
| 準備する | 27 |
| 乗せる | 29 |
| 移動する | 32 |
| 降ろす | 36 |
| Hug L1 が動かないときは | 39 |
| 緊急時動作ボタン | 39 |
| メンテナンス | 40 |
| 点検をする | 40 |
| お手入れをする | 41 |
| 身体保持部を交換する | 42 |
| このようなときは | 45 |
| 故障かな？と思ったときは | 45 |
| ブザーが鳴る場合 | 45 |
| エラー表示ランプが点灯する場合 | 46 |
| 長期保管をするときの注意 | 46 |
| 仕様 | 47 |
| 保証とアフターサービス | 49 |

安全上のご注意

必ずご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度に応じて「**△危険**」、「**△警告**」、「**△注意**」の三つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

表示の説明

| 表示 | 表示の意味 |
|--|---|
| △危険 | “回避しないと、死亡または重傷 ^{*1} を招く差し迫った危険な状況になること”を示します。 |
| △警告 | “回避しないと、死亡または重傷 ^{*1} を招く恐れがある危険な状況になること”を示します。 |
| △注意 | “回避しないと、軽傷または中程度の傷害 ^{*2} を招く恐れがある危険な状況および物的損害 ^{*3} のみの発生を招く恐れがあること”を示します。 |
|  | 製品の取扱いにおいて、その行為を禁止することを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。 |

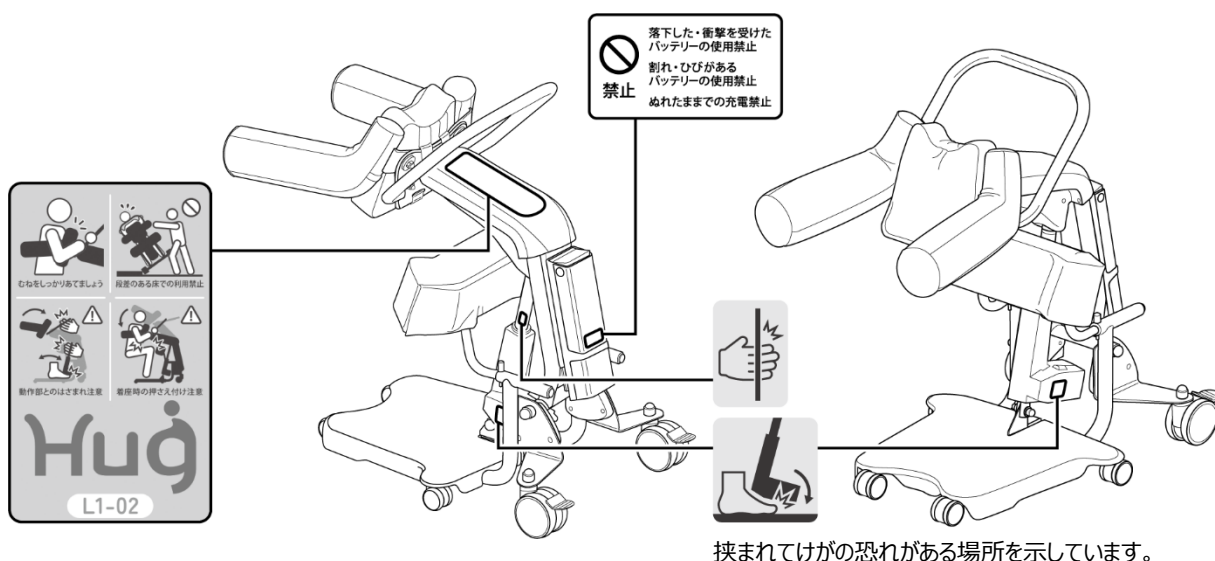
*1：重傷とは、失明、けが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで後遺症をもたらすもの、および治療に入院や長期の通院を要するものを指す。

*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などを指す。

*3：物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指す。

安全ラベルについて

注意事項の中で、特に注意していただきたい項目をラベルにして貼っています。ラベルをはがしたり、傷つけたりしないでください。はがれたり、傷ついたりした場合には、販売店またはサービスセンターから新しいラベルを取り寄せ、正しい位置に貼り直してください。



本体に関する注意事項

⚠警告

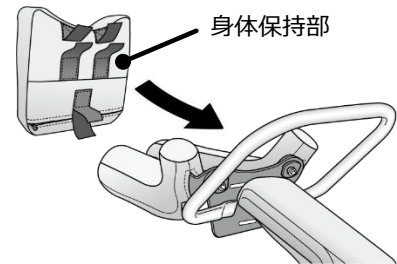
介護を受ける方の症状にあわせて使用してください

- 関節などに痛みが生じやすい方、骨粗しょう症をお持ちの方など、症状によっては悪化させる可能性があります。ご使用前に、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。
- 脇下、胸、膝でご自身の体重を支え切れない方、体調がすぐれない方が使用すると、転落・転倒してけがをする恐れがあります。

Hug L1 に身体保持部を正しく装着し、固定してください (P.42)

また、弊社指定の製品を使用してください

- 身体保持部の固定が正しくできていないと、転落・転倒してけがをする恐れがあります。
- 指定以外の製品を使用すると確実な固定ができず、転落・転倒してけがをする恐れがあります。



介護を受ける方が身体保持部に正しい姿勢で乗っているか確認してください

- 身体保持部に正しい姿勢で乗っていないと、Hug L1 の動きに追従できず、転倒してけがをする恐れがあります。
- ハンドルとカバーの間に頭が挟まれ、けがをする恐れがあります。
- 介護を受ける方の症状や状態によって、正しい姿勢が異なります。専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。



2人以上を移乗させないでください

- 移乗できる方は1人です。2人以上の方を移乗させると、転落・転倒してけがをしたり、本体が破損・変形したりする恐れがあります。

介護を受ける方に操作させないでください

- 安定した起立姿勢にならず、バランスを崩してけがをする恐れがあります。

操作することが困難と思われる方（12歳以下の子供や認知症の方など）に操作させないでください

- 操作することが困難と思われる方が操作した場合、身体が挟まれたり、転倒したりするなど、けがをする恐れがあります。

最大使用者体重を超える荷重を加えないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、本体が破損・変形したりする恐れがあります。
- 最大使用者体重は100kgです。

介護を受ける方を乗せた状態で移動するときは、できるだけゆっくりと動かしてください

- 急停止や急加速すると、転落・転倒してけがをする恐れがあります。
- 操作をする人の足がすべり、体勢が崩れ転倒してけがをする恐れがあります。

介護を受ける方を乗せた状態で、長距離を移動しないでください

- 転倒してけがをする恐れがあります。Hug L1 は移乗動作を支援する機器であり、長距離の移動には適していません。長距離の移動には、車椅子などを使用してください。

⚠警告

介護を受ける方を乗せた状態で、長時間放置しないでください

- 転倒してけがをする恐れがあります。Hug L1 は移乗動作を支援する機器であり、長時間の立位保持には適していません。

ハンドルに体重をかけないでください

- ハンドルは移動用の取手です。ハンドルに体重を乗せると、転倒してけがをする恐れがあります。
- 過大な荷重により、本体が破損・変形する恐れがあります。

やわらかい床では使用しないでください

- 移動のしにくいやわらかい床では使用しないでください。キャスターが沈み込み、転倒してけがをする恐れがあります。

使用可能温度以外の場所では使用しないでください

- 機構部が動作せず、本体が故障する恐れがあります。
- 使用可能温度は、0～40℃です。

段差の乗り越え、スロープなど、傾斜や段差、凸凹のある場所では使用しないでください

- キャスターが段差に引っ掛かると、急停止や強い振動が起き、転倒してけがをする恐れがあります。
- スロープの傾斜がある場所で使用したとき、バランスを崩して転倒し、けがをする恐れがあります。
- 転倒により、本体が破損・変形する恐れがあります。

屋外では使用しないでください

- 路面の状態が不安定なため、転倒してけがをする恐れがあります。
- 路面の凸凹による衝撃や雨・風やほこりの影響を受けると、故障の原因になります。



お手入れをするときは非常停止ボタンを押してください

- 電源を切らないと、誤操作により本体が動いて、けがをする恐れがあります。

⚠警告

身体保持部の下に潜り込まないでください

- 身体保持部と座面との間に挟まれ、けがをする恐れがあります。



身体保持部の上に立ち上がらないでください

- 身体保持部から転落して、けがをする恐れがあります。

コード類（リモコン・充電器のコード）を傷つけないでください

- 本体の可動部にコード類を挟まないようにしてください。
- コード類の上に重いものを置いたり、無理な力を加えたりしないようにしてください。
- 本体でコード類を踏みつけしないでください。
- 傷んだコード類は修理（交換）を依頼してください。

電子治療器を使用するときは Hug L1 の非常停止ボタンを押してください

- 電子治療器（マイクロ波治療器、超短波治療器など）を同時に使用すると、本体の故障や誤動作の原因になります。
- 他の電子治療器と併用するときは、安全をご確認のうえ使用してください。

お客様による修理・改造はしないでください

- 意図しないすき間の発生や異常動作などにより、けがをする恐れがあります。

リモコン・充電器のコードに足を引っ掛けないようにしてください

- 転倒してけがをする恐れがあります。

使用前に日常点検（P.40）を行ってください

- 使用の頻度や環境によって摩耗・劣化した状態で使用すると、動作不良・故障の原因になります。
- 日常点検で異常を発見した場合は、使用を中止し、販売店または Hug サポートセンターまでお問い合わせください。

地震・火災・水害などで被災した Hug L1 は点検・修理を依頼してください

- 電気回路のショートや感電・火災、変形による動作の異常によって、けがをする恐れがあります。
- 販売店または Hug サポートセンターまで点検・修理を依頼してください。

火気に近づけないでください

- 本体の近くで、ストーブなどの熱器具を使用しないでください。変質・変形・火災などの原因になります。

異常な音がするときは使用しないでください

- そのまま使用すると、本体が破損し、感電・火災の原因になります。
- 転倒してけがをする恐れがあります。
- 販売店または Hug サポートセンターまで点検・修理を依頼してください。

警告

予期せぬ動作をした場合は非常停止ボタンを押してください

- 転落・転倒してけがをする恐れがあります。

可動部のすき間に挟まれる可能性がある衣服や、キャスターに巻き込まれる可能性がある靴を着用して使用しないでください

- 移乗動作をするときに衣服や靴が挟まれて、けがをする恐れがあります。
- Hug L1 を移動するときに衣服や靴が巻き込まれて、けがをする恐れがあります。

直射日光の当たる場所に長時間置かないでください

- 表面が熱くなり、火傷をする恐れがあります。

ペースメーカーを使用している方は、ペースメーカー装着部位と Hug L1 本体のモーター部を 5 cm 以上離してください

- ペースメーカーの作動に影響を及ぼす恐れがあります。

Hug L1 を視界が確保できていない状況で操作しないでください

- 本体と室内の壁や扉など建物の一部や家具などの間に挟まれて、けがをする恐れがあります。
- 本体が家具などに当たり、破損する恐れがあります。
- 飼育しているペットと衝突し、けがをする恐れがあります。
- 本体と周囲にいる人と衝突し、けがをする恐れがあります。

バランスを崩す可能性のある方は片足立ちにならないように使用してください

- 体勢を崩して Hug L1 から転落・転倒してけがをする恐れがあります。

操作者が操作をする際は、ハンドルをしっかり握ってください

- Hug L1 を動かそうとしたときに手がすべり、体勢が崩れ転倒してけがをする恐れがあります。

脱ぎかけのままなど、衣服が隙間に挟まれる可能性のある状態で使用しないでください

- 移乗動作をするときに衣服や靴が挟まれて、けがをする恐れがあります。
- Hug L1 を移動するときに衣服や靴が巻き込まれて、けがをする恐れがあります。

Hug L1 に水などの液体をかけないでください

- 水分が内部へ侵入し電気部品に付着すると、電気回路のショートによる故障・感電の原因になります。また、本体にさびが発生し、動作不良の原因になります。
 - 水などでぬらしてしまった場合は、水分をふき取り、風通しの良い場所で乾燥させてください。
-

⚠️ 注意

Hug L1 を合計 2 分間使用した場合、18 分間休ませてください

- 連続使用は故障の恐れがあります。

Hug L1 を子供に触らせたり、本体の周囲で遊ばせたりしないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、本体が破損・変形したりする恐れがあります。

Hug L1 を操作するときは、周囲環境に注意してください

- 本体と室内の壁や扉など建物の一部や家具などの間に挟まれて、けがをする恐れがあります。
- 本体が家具などに当たり、破損する恐れがあります。
- 飼育しているペットと衝突し、けがをする恐れがあります。
- 本体と周囲にいる人と衝突し、けがをする恐れがあります。
- 近くのロボットと衝突し、けがをする恐れがあります。

ベッドの側で Hug L1 を操作しているときは、ベッドの操作をしないでください

- ベッドの高さ調整などの操作をすると、ベッドと本体の脚部やキャスター部が当たり、破損・変形する恐れがあります。

Hug L1 をベッドに近づける際は、ベッドの周囲に注意してください

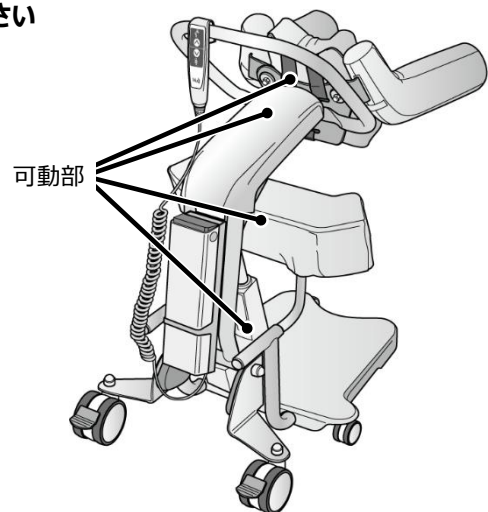
- ベッドのキャスターのロックを解除していると、ベッドが動いてけがをする恐れがあります。
- 本体がベッドに当たり、破損する恐れがあります。

Hug L1 の上に登ったり、ぶら下がったり、ものを掛けたりしないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、本体が破損・変形したりする恐れがあります。

可動部のすき間に、手や指、毛髪などを挟まないようにしてください

- 移乗動作するときに挟まれて、けがをする恐れがあります。



移動するときは、足もとに注意してください

- 本体の下に足を挟まれたり、キャスターに足を踏まれたりして、けがをする恐れがあります。

スプレータイプの殺虫剤を Hug L1 に噴射しないでください

- 殺虫剤に含まれる溶剤によって、本体の樹脂部分が破損・変色・溶解する原因になります。また、破損・溶解した部分でけがをする恐れがあります。

Hug L1 で荷物を運ばないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、本体が破損・変形したりする恐れがあります。
- 荷物が落下して周囲の人に当たり、けがをする恐れがあります。

発疹・発赤、かゆみなど皮膚に異常が発生した場合、使用を中止してください

- けがの原因になる恐れがあります。

注意

介護を受ける方の顔に液体がかからないようにしてください

- 避けようとして体勢を崩し、Hug L1 から転落・転倒してけがをする恐れがあります。
-

湿気の多い場所に長期間放置しないでください

- 湿気の多い場所で使用した後は、風通しの良い場所で乾燥させてください。
-

バッテリーに関する注意事項

⚠危険

バッテリーを分解したり、改造したりしないでください

- バッテリーには危険を防止するための保護機構や保護装置が組み込まれています。これらが破損すると、発熱・破裂・発火する原因になります。

バッテリーを火の中に投入したり、加熱したりしないでください

- 絶縁物が溶けたり、保護機構が損傷して発熱・破裂・発火する原因になります。

バッテリーを水や海水などに浸けないでください

- 保護装置が壊れると、異常な電流や電圧で充電され、漏液・発熱・破裂・発火する原因になります。

バッテリーにくぎを刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたりしないでください

- バッテリーが破壊・変形され、保護機構が損傷して発熱・破裂・発火する原因になります。

バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください

- 保護装置が壊れると、異常な電流や電圧で充電され、漏液・発熱・破裂・発火する原因になります。

バッテリーに直接ハンダ付けをしないでください

- 熱により絶縁物が溶けたり、保護機構が損傷して発熱・破裂・発火する原因になります。

バッテリーは、6カ月に一度は充電してください

- 過放電による、バッテリー内部の異常な化学反応によって、漏液・発熱・破裂・発火の原因になります。

バッテリーの充電は弊社指定の充電器を使用してください

- 指定以外の製品を使用すると、漏液・発熱・破裂・発火する原因になります。

⚠警告

バッテリーを電子レンジや高圧器に入れないでください

- 急に加熱されたり、密閉状態が保持できなかつたりなどして、発熱・破裂・発火する原因になります。

バッテリーを使用・充電・保管したときに、破損・異臭・発熱・変色・変形など今までと異なる状況に気が付いたときは使用しないでください

- そのまま使用すると、感電・発熱・破裂・発火の原因になります。

バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは直ちに火気から遠ざけてください

- 漏液した電解液に引火し、破裂・発火する原因になります。

バッテリーが漏液して液が目に入った場合には、直ちにきれいな水で洗い流し、医師の治療を受けてください

- 放置すると目に障害を与える恐れがあります。

バッテリーが漏液して液が皮膚や衣服に付着した場合には、直ちにきれいな水で洗い流してください

- 皮膚がかぶれる恐れがあります。

所定の充電時間（約4時間）を超えても充電が完了しない場合には、充電を中止してください

- 漏液・発熱・破裂・発火する原因になります。

警告

バッテリーを持ち運ぶ際に落とさないようにしてください

- バッテリーが足に落下し、けがをする恐れがあります。
-

直射日光の強い場所や炎天下で駐車している車内など高温になる場所で使用したり、放置したりしないでください

- 漏液・破損・発熱・破裂する原因になります。使用可能温度は、0～40℃です。
-

注意

弊社指定のバッテリーを使用してください

- 指定以外の製品を使用すると、感電・発熱・破裂・発火の原因になります。
-

静電気が発生する場所で使用しないでください

- 保護装置が壊れ、発熱・破裂・発火する原因になります。
-

4時間以上充電しても動作時間が短い場合は、使用しないでください

- 漏液・破損・発熱・破裂する原因になります。
 - バッテリーの交換時期です。販売店または Hug サポートセンターまでお問い合わせください。
-

充電器に関する注意事項

⚠危険

表示された電源電圧以外で使用しないでください

- 交流（AC）100～240V 以外の電源電圧で使用すると、発熱・火災・感電・けが・故障の原因になります。
- 海外では、国・地域によって電圧やコンセントの形状が異なる場合があります。あらかじめ確認したうえ、必要に応じて変換プラグを使用してください。

充電器を分解したり、改造したりしないでください

- 充電器に組み込まれている制御装置や、危険を防止するための安全機構や保護装置が壊れると、発熱・火災・感電・けが・故障の原因になります。

充電器に強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください

- 充電器に組み込まれている制御装置が壊れると、異常な電流や電圧で充電し、バッテリー内部で異常な化学反応が起こり、発熱・破裂・発火する原因になります。

充電器に直接ハンダ付けしないでください

- 熱により、絶縁物が溶けるなどして、発熱・破裂・発火する原因になります。

火の近くや、炎天下など高温になる場所で充電しないでください

- 高温になると危険を防止するための保護装置が働き、充電できなくなったり、保護装置が壊れて異常な電流や電圧で充電されたり、電池内部で異常な化学反応が起こったりして、発熱・破裂・発火する原因になります。

⚠警告

充電器に異常があるときは使用しないでください

- 煙が出ている、変なにおいや音がするなど、異常な状態で使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに使用を中止し、充電器をコンセントから抜いてください。

充電器のコードを破損しないでください

- 衝撃を与えたり、投げつけたり、落としたりするなどの理由で破損すると、故障・感電・火災の原因になります。
- 破損した場合は、すぐに使用を中止し、充電器をコンセントから抜いてください。そのまま使用すると感電・火災の原因になります。

水や海水などに浸けたり、ぬらしたりしないでください。また、風呂場など水のかかる場所で使用しないでください

- 水やペットの尿などの液体が内部に入ると、故障・感電・火災の原因になります。
- 充電器の内部に水が入った場合は、すぐに使用を中止し、充電器をコンセントから抜いてください。そのまま使用すると感電・火災の原因になります。

充電器の接点部に針金などの金属を差し込んだり、接続したりしないでください

- 金属物でショートさせると、充電器に過大な電流が流れ、充電器や針金・ネックレス・ヘアピンなどの金属物が発熱し、故障・発熱・感電・けが・火災の原因になります。

電源プラグ・充電プラグなどに無理な力を加えないでください

- 破損し、感電・火災の原因になります。

電源プラグ・充電プラグなどをぬれた手で抜き差ししないでください

- 感電・故障の原因になります。

⚠警告

市販の電子変圧器は使用しないでください

- 海外で使用するための電子変圧器などに接続すると、火災・感電の原因になります。

電源プラグ・充電プラグなどを抜く際は、プラグ部を持って抜いてください

- コードを持って引き抜くと、コードが傷んで断線し、感電・火災の原因になります。

コード類を傷つけないようにしてください

- コード類の上に重いものを載せたり、引っ張ったりすると、破損し故障・感電・火災の原因になります。
- 芯線の露出など、コードが破損した場合は、すぐに使用を中止し、充電器の電源プラグをコンセントから抜いてください。

コード類を加工したり、無理に曲げたり、加熱したりしないでください

- コード類が破損し、故障・発熱・感電・火災の原因になります。

電源プラグ・充電プラグが不完全な接続のまま使用しないでください

- 接触不良で発熱し、火災の原因になります。

電源プラグ・充電プラグにほこりや汚れ、金属物などの異物を付着させないでください

- 感電・火災の原因になります。
- ほこりや汚れが付着したときは、電源プラグをコンセントから抜いて、取り除いてください。

所定の充電時間（約 4 時間）を超えても充電が完了しない場合には、すぐに使用を中止し、充電器をコンセントから抜いてください

- そのまま使用すると、バッテリーが発熱、破裂、発火する恐れがあります。

⚠注意

充電器を湿気・ほこり・湯気のある場所に置かないでください

- 感電・火災の原因になります。

お手入れをするときや長時間使用しないときは電源プラグを抜いてください

- 感電・火災の原因になります。

充電器を振動の激しいところに置かないでください

- 内部の部品が破損し、火災の原因になります。

充電器は熱器具に近づけないでください

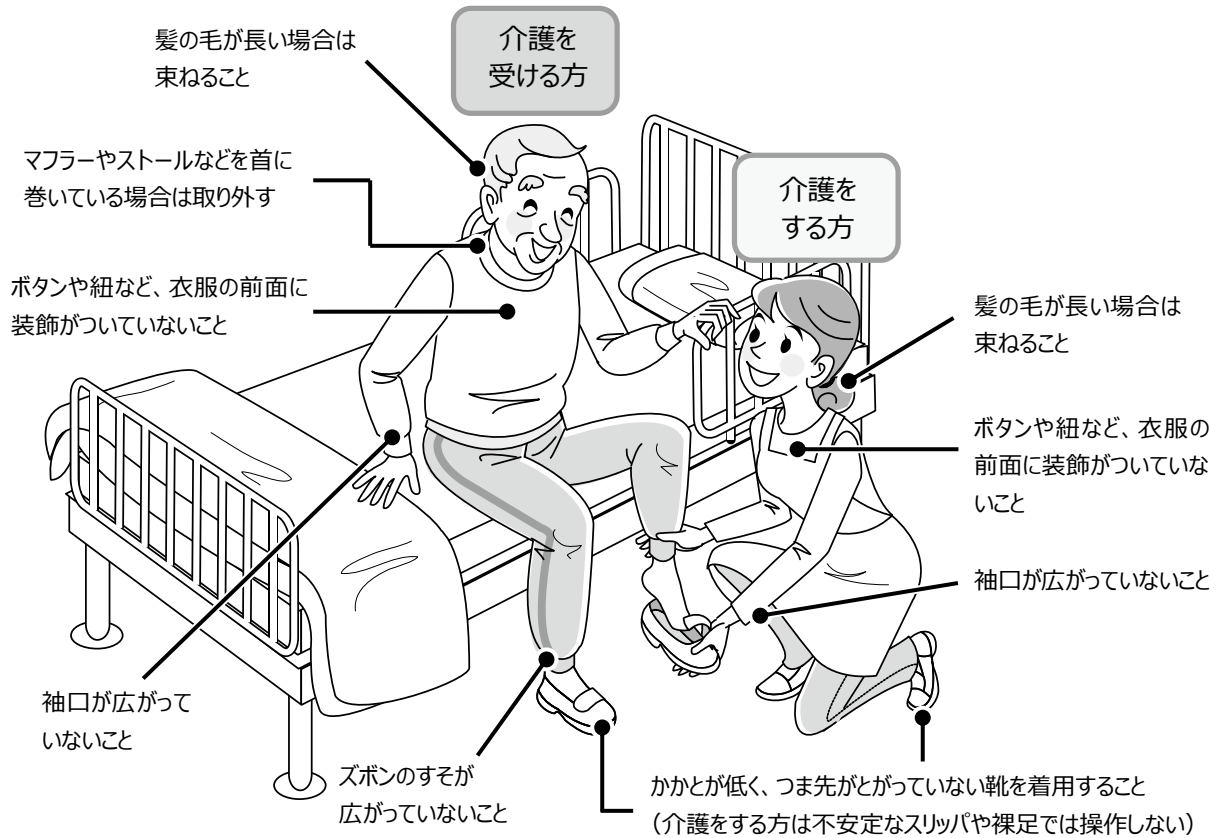
- コードの被覆が溶けて感電・火災の原因になります。

極端に寒い場所、暑い場所で使用しないでください

- 感電・火災の原因になります。充電温度範囲は 5～45°C です。

安全に使用するための服装

Hug L1 の移乗操作や移動などのとき、衣服や靴が巻き込まれてけがをしないように、以下の項目を確認したうえで服装を選んでください。



□メモ

介護を受ける方は、靴をはいていない状態でもご使用いただけます。

Hug L1 のご紹介

使用目的

Hug L1 を使用することにより、ベッド・車椅子からの移乗やトイレなど目的地への移動をサポートし、介護をする方と介護を受ける方の身体的負担を軽減します。

主な特長

- 移乗するときに介護を受ける方が上半身を前傾させて重心を足裏へ移動することで、介護を受ける方自身の立ち上がろうとする力をサポートします。
- スリングシートを用いないので、準備に時間がかかりません。
- トイレなどの狭い場所でも使用できるサイズなので、使う場所を選びません。

対象となる方

- 移乗動作に補助が必要な方
- 介護をする方が片手で支える程度で端座位が可能な方
- 介護を受ける方の身長が 140～180 cm の方
- 介護を受ける方の体重が 100 kg 以内の方

介護を受ける方の症状・身体機能、介護する方の体力や機器への適応能力などを専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。

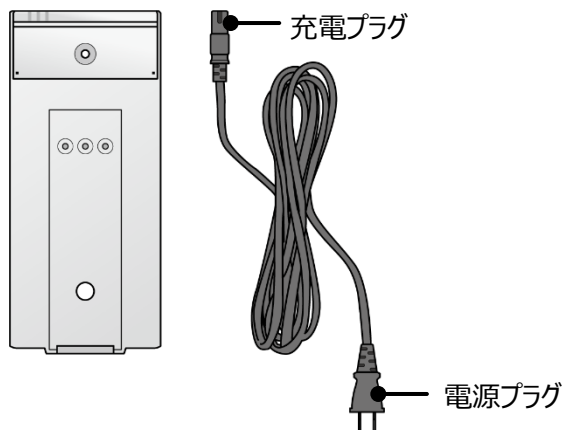
使用できる環境

- 周辺に干渉するものがない場所
干渉の有無に関しては、事前に介護をする方が確認してからご使用になることをおすすめします。
- 介護を受ける方が座る座面の高さが 40～60 cm

付属品

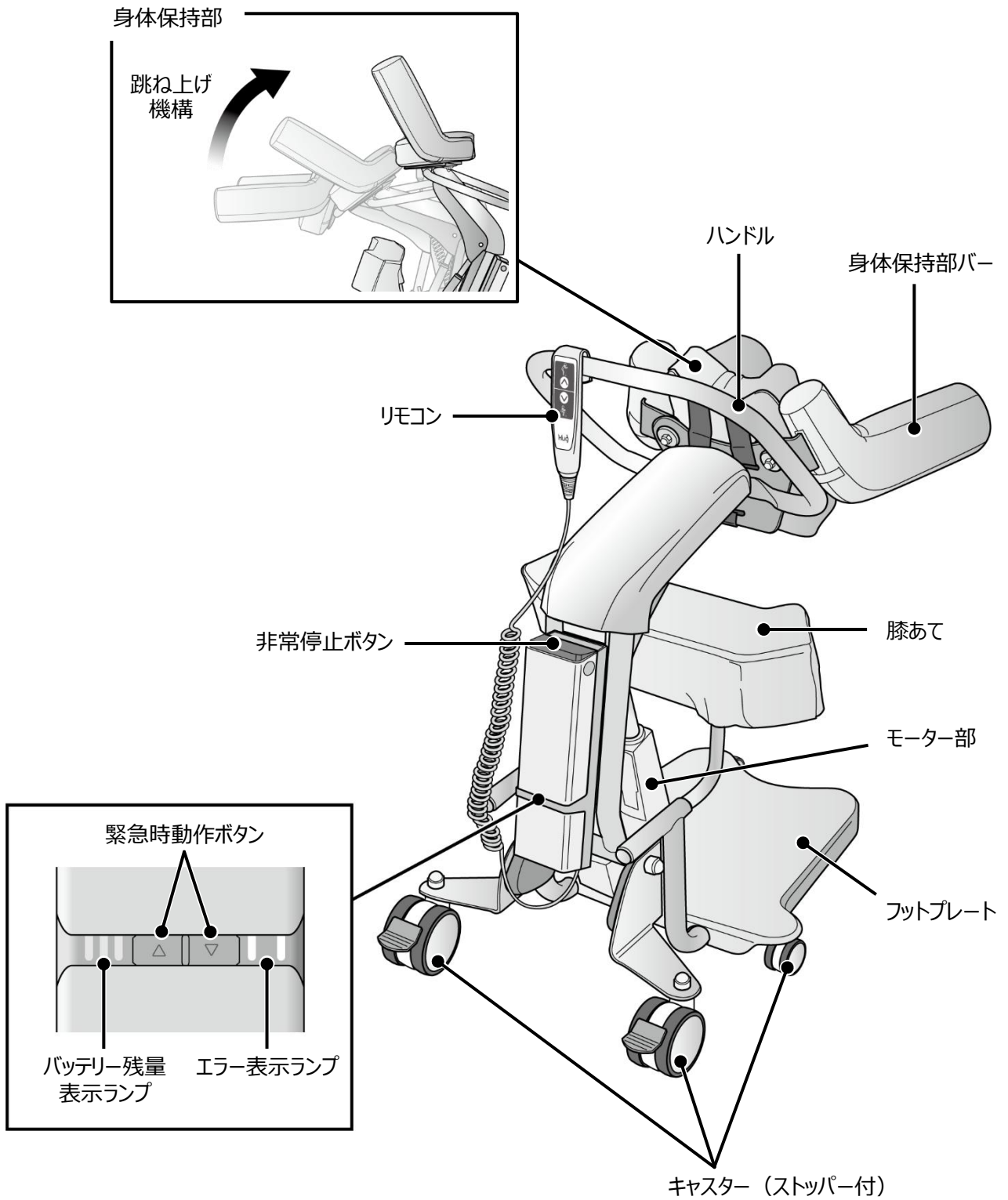
- 充電器
- 充電ステーション：1 個
 - 電源コード：1 個

バッテリー：1 個



各部の名称

本体

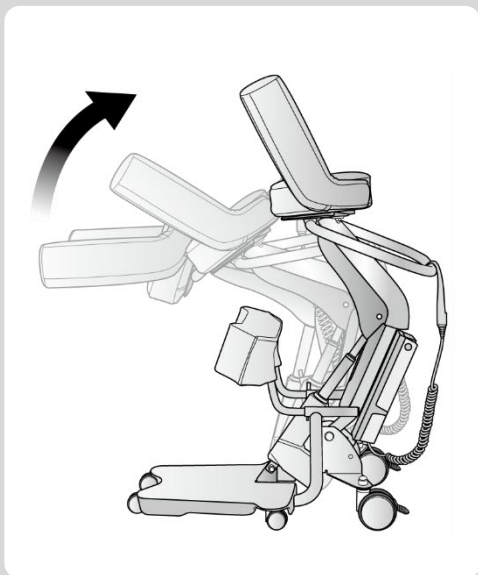


リモコン



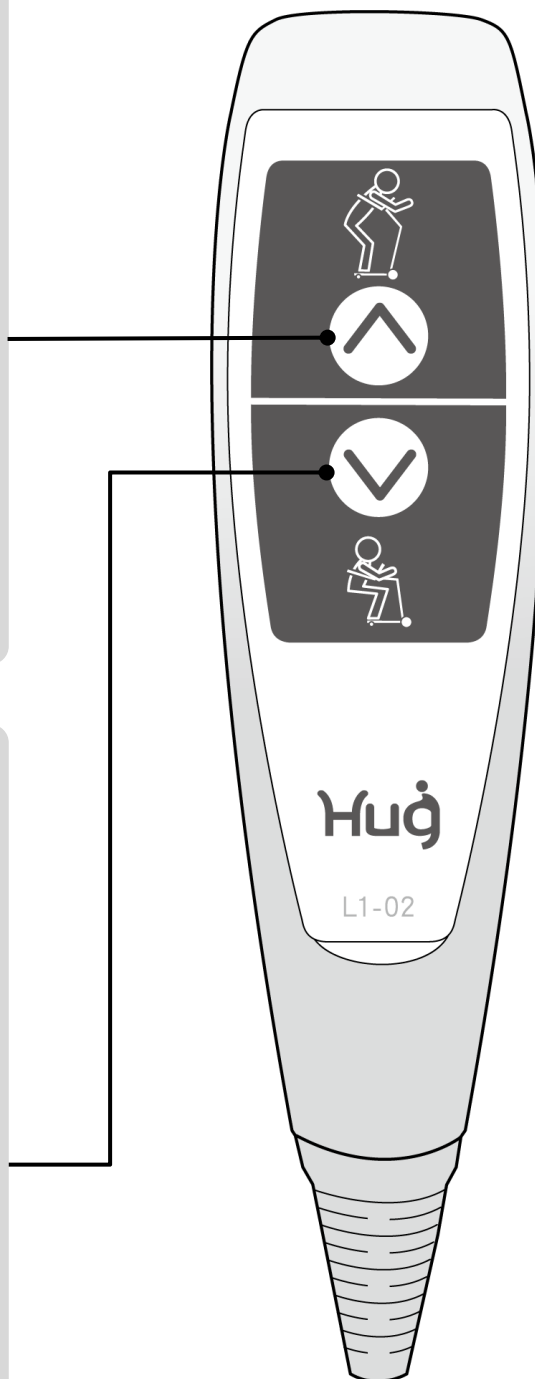
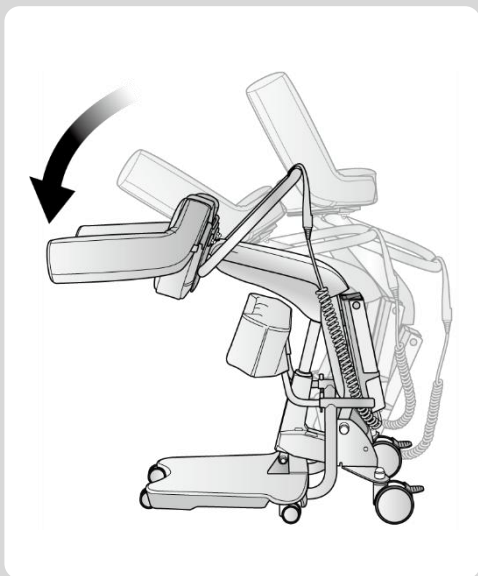
「たつ」ボタン

身体保持部が持ち上がります。



「すわる」ボタン

身体保持部が下がります。



Hug L1 をお使いになる前に

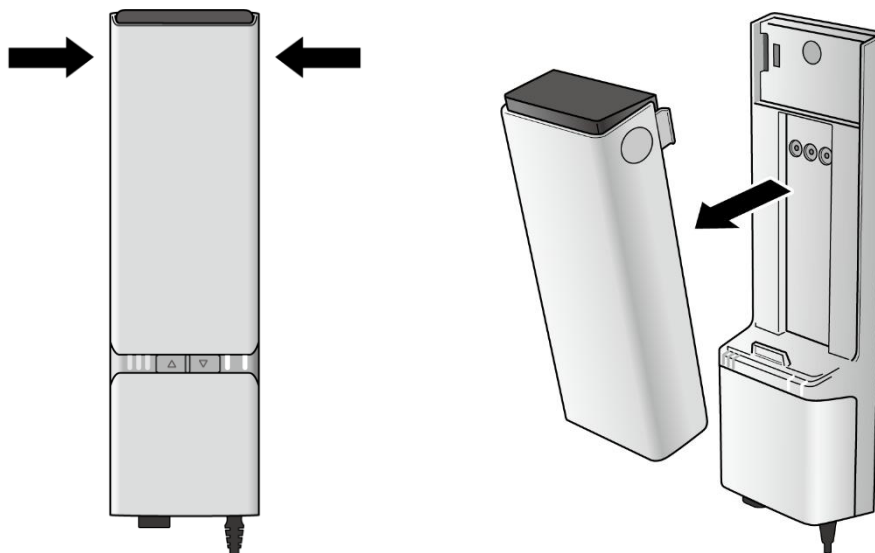
バッテリーを充電する

はじめて使用するときやバッテリーを新品に交換したとき、長期間使用しなかったときは、バッテリーを充電してから Hug L1 を使用してください。特にバッテリーが新品ではじめて充電するときは、寿命を延ばすために 24 時間以上充電してください。バッテリーの残量が不足していると Hug L1 が動かない可能性がありますので、こまめに充電することをおすすめします。

| | |
|--------------------|---|
| <p>⚠ 危険</p> | <p>バッテリーの充電は弊社指定の充電器を使用してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定以外の製品を使用すると、漏液・発熱・破裂・発火の原因になります。 <p>表示された電源電圧以外で使用しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流（AC）100～240V 以外の電源電圧で使用すると、発熱・火災・感電・けが・故障の原因になります。 海外では、国・地域によって電圧やコンセントの形状が異なる場合があります。あらかじめ確認したうえ、必要に応じて変換プラグを使用してください。 <p>充電器を分解したり、改造したりしないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> 充電器に組み込まれている制御装置や、危険を防止するための安全機構や保護装置が壊れると、発熱・火災・感電・けが・故障の原因になります。 <p>充電器に強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> 充電器に組み込まれている制御装置が壊れると、異常な電流や電圧で充電し、バッテリー内部で異常な化学反応が起こり、発熱・破裂・発火の原因になります。 |
| <p>⚠ 警告</p> | <p>バッテリーを使用・充電・保管したときに、破損・異臭・発熱・変色・変形など今までと異なる状況に気が付いたときは使用しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> そのまま使用すると、感電・発熱・破裂・発火の原因になります。 <p>バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは直ちに火気から遠ざけてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 漏液した電解液に引火し、破裂・発火の原因になります。 <p>バッテリーが漏液して液が目に入った場合には、直ちにきれいな水で洗い流し、医師の治療を受けてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 放置すると目に障害を与える恐れがあります。 <p>バッテリーが漏液して液が皮膚や衣服に付着した場合には、直ちにきれいな水で洗い流してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 皮膚がかぶれる恐れがあります。 <p>所定の充電時間（約 4 時間）を超えても充電が完了しない場合には、充電を中止してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 漏液・発熱・破裂・発火の原因になります。 |
| <p>⚠ 注意</p> | <p>弊社指定のバッテリーを使用してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定以外の製品を使用すると、感電・発熱・破裂・発火の原因になります。 <p>4 時間以上充電しても動作時間が短い場合は、使用しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> 漏液・破損・発熱・破裂する原因になります。 バッテリーの交換時期です。販売店または Hug サポートセンターまでお問い合わせください。 |

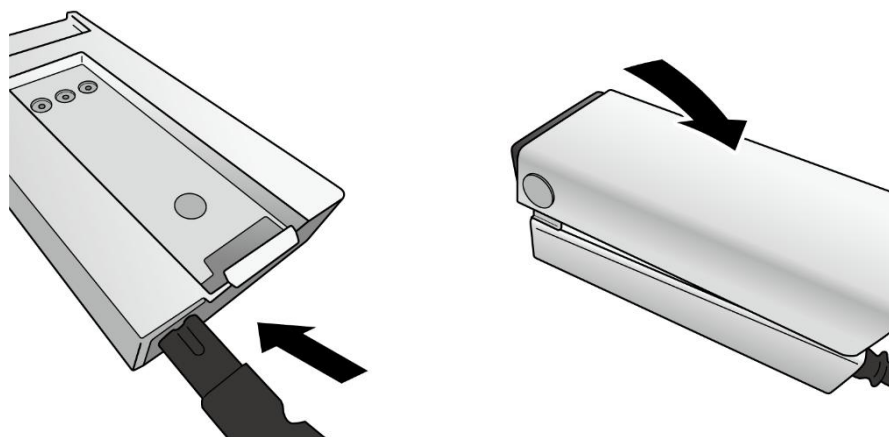
1 バッテリーを本体から取り外す 〈取り外し手順〉

- ① バッテリー横にある 2 つのボタンを押し込みます。
- ② ボタンを押し込んだままバッテリーを引き、バッテリーを取り外します。



2 バッテリーを充電器に接続する 〈接続手順〉

- ① 充電ステーションと、電源コードの充電プラグを接続します。
- ② 電源コードの電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ③ バッテリーを充電ステーションに取り付けます。
バッテリーがぬれている場合、ふき取ってから取り付けてください。



⚠ 警告

充電ステーション・電源コードに異常があるときは使用しないでください

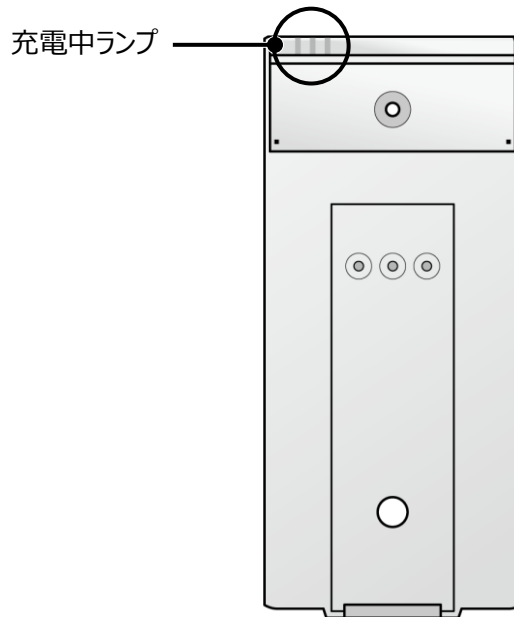
- 煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常な状態で使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに使用を中止し、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグ・充電プラグが不完全な接続のまま使用しないでください

- 接触不良で発熱し、火災の原因になります。

3 充電ステーションの充電中ランプが点灯することを確認する

約 4 時間で満充電になります。(室温やバッテリー残量によって異なります。)



〈充電中ランプの見かた〉

充電の状態に合わせて、次のように表示が変わります。

| 表示 | 点灯状態 | 状態 | |
|----|-----------------------|------|---------------------------------|
| | 3 つ点灯 | 未充電 | 電源につながっていますが、バッテリーを充電していません。 |
| | | 充電完了 | バッテリーが 90%以上充電されている状態です。 |
| | 2 つ点灯 1 つ点滅 | 充電中 | バッテリーが 65%以上充電されている状態です。 |
| | 1 つ点灯 1 つ点滅 | 充電中 | バッテリーが 40%以上充電されている状態です。 |
| | 1 つ点滅 | 充電中 | バッテリーが 40%未満充電されている状態です。 |
| | 3 つ点滅 または 3 つ消灯 | 異常 | 販売店または Hug サポートセンターにお問い合わせください。 |

4 充電が終わったら、バッテリーを充電ステーションから取り外す

□メモ

充電完了の状態でも充電ステーションにバッテリーを取り付けたままにしても、過充電になりません。

⚠警告

電源プラグなどをぬれた手で抜き差ししないでください

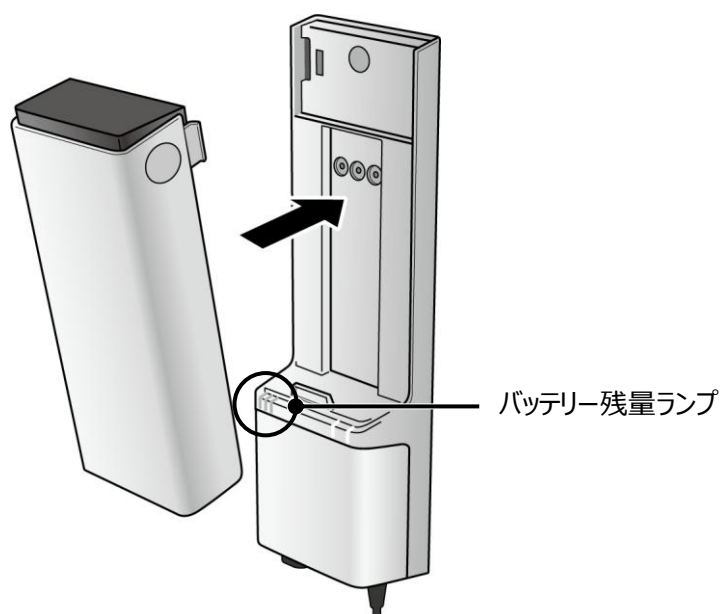
- 感電・故障の原因になります。

電源プラグなどを抜く際は、プラグ部を持って抜いてください

- コードを持って引き抜くと、コードが傷んで断線し、感電・火災の原因になります。

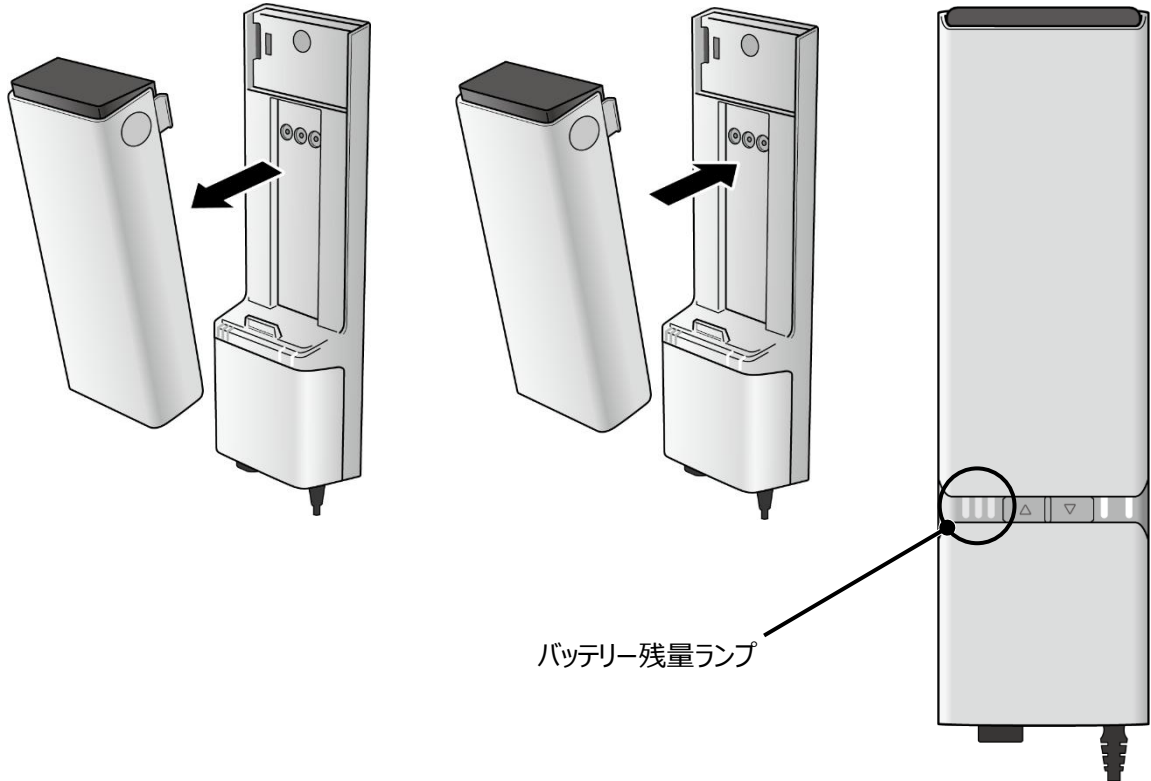
5 バッテリーを本体に取り付ける

バッテリーが正しく取り付けられると、バッテリー残量ランプが点灯します。



バッテリーの残量を確認する

- 1** バッテリーを本体から取り外し、もう一度取り付ける
バッテリー残量ランプが点灯します。



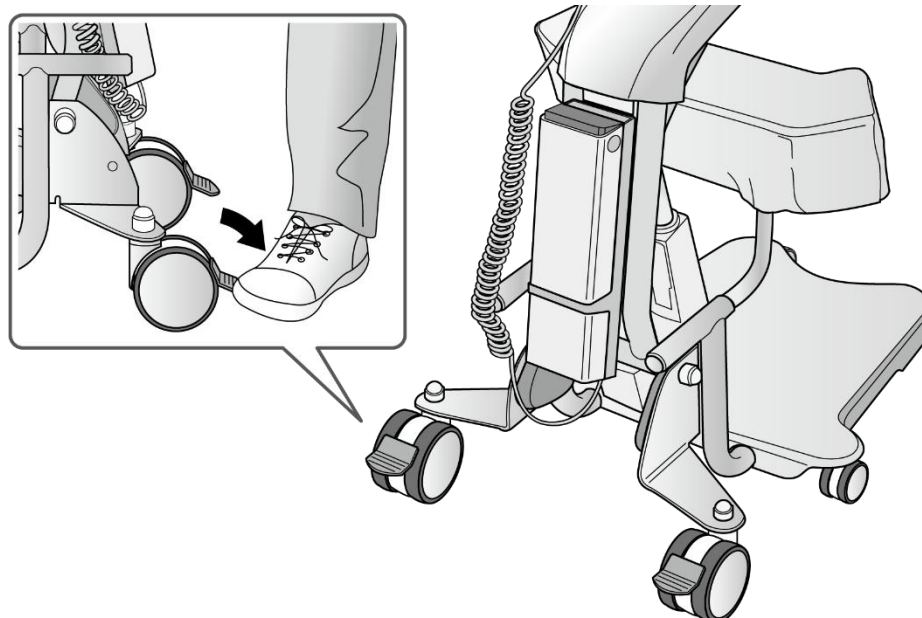
- 2** バッテリー残量ランプの表示を確認する
〈バッテリー残量ランプの見かた〉

| 表示 | 色 | バッテリーの残量 |
|----|-------------|---|
| | 緑 (3つ点灯) | 75%以上 |
| | 緑 (2つ点灯) | 50%以上 75%未満 |
| | 緑 (1つ点灯) | 50%未満 |
| | 橙 (1つ点滅) | バッテリー残量がありません。バッテリーを充電してください。 ⇒「バッテリーを充電する (P.16)」 |

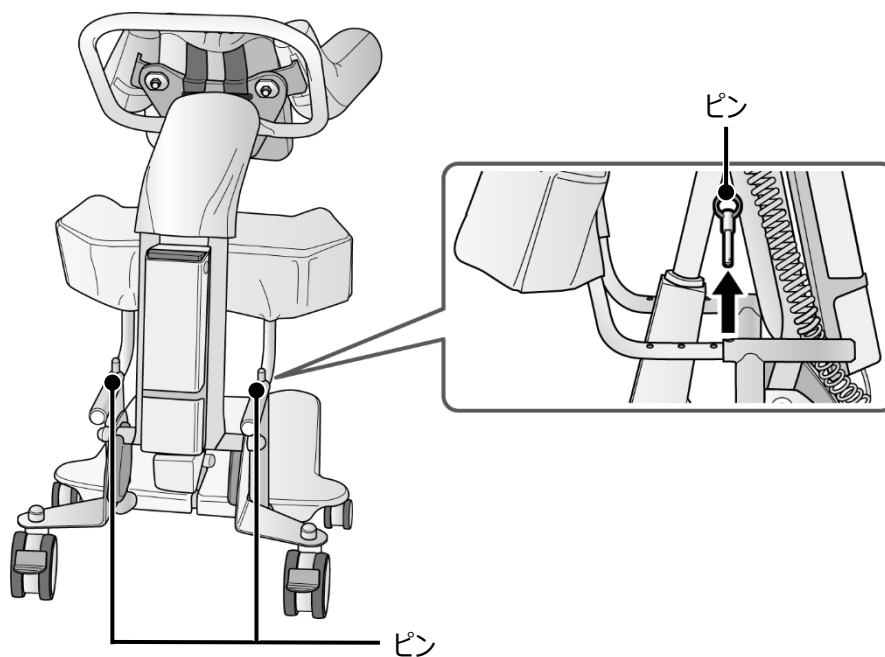
膝あての位置を調整する

はじめて使用するときや介護を受ける方の状態に合わせて、膝あての位置を前後に調整します。

1 キャスターがロックされていることを確認する

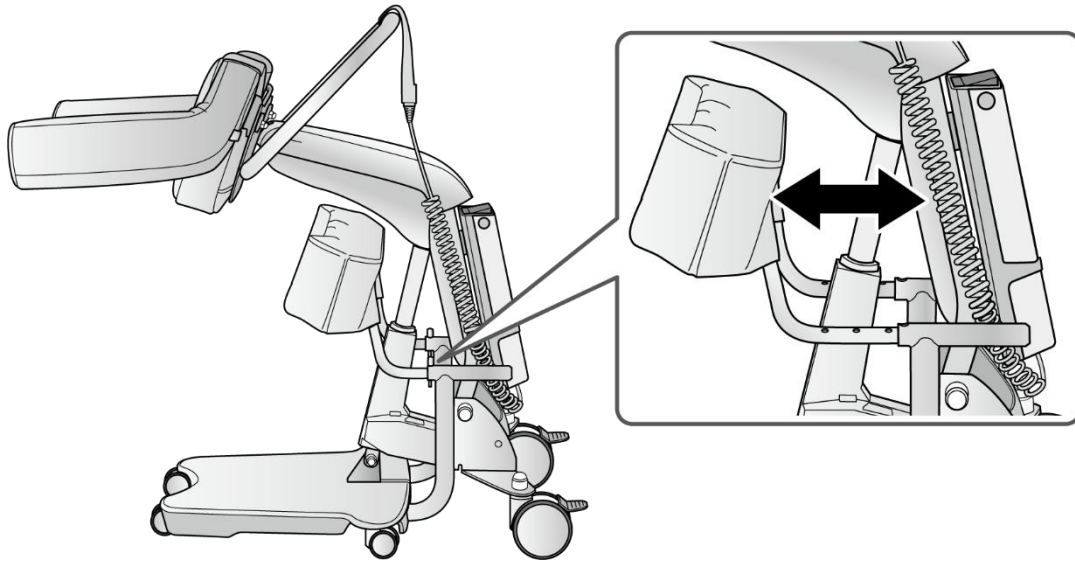


2 左右にあるピンを引き抜く

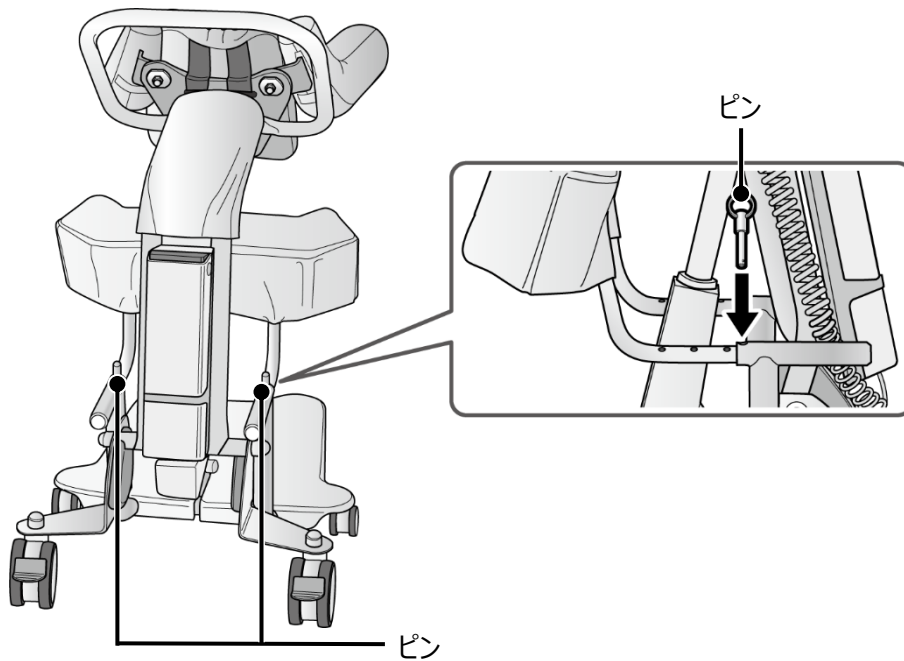


3 膝あての位置を調整する

3段階に調整ができます。



4 左右にあるピンを押し込む



Hug L1 の使いかた

Hug L1 は次の手順で操作します。バッテリーの残量が不足していると操作ができなくなりますので、お使いになる前にバッテリーの残量を確認してください。ブザーが鳴ったときは、充電してからご使用ください。



警告

介護を受ける方の症状にあわせて使用してください

- 関節などに痛みが生じやすい方、骨粗しょう症をお持ちの方など、症状によっては悪化させる可能性があります。ご使用前に、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。
- 脇下、胸、膝でご自身の体重を支え切れない方、体調がすぐれない方が使用すると、転落・転倒してけがをする恐れがあります。

2人以上を移乗させないでください

- 移乗できる方は1人です。2人以上の方を移乗させると、転落・転倒してけがをしたり、本体が破損・変形したりする恐れがあります。

介護を受ける方に操作させないでください

- 安定した起立姿勢にならず、バランスを崩してけがをする恐れがあります。

使用可能温度以外の場所では使用しないでください

- 機構部が動作せず、本体が故障する恐れがあります。
- 使用可能温度は、0～40℃です。

やわらかい床では使用しないでください

- 移動のしにくいやわらかい床では使用しないでください。キャスターが沈み込み、転倒してけがをする恐れがあります。

段差の乗り越え、スロープなど、傾斜や段差、凸凹のある場所では使用しないでください

- キャスターが段差に引っ掛かると、急停止や強い振動が起き、転倒してけがをする恐れがあります。
- スロープの傾斜がある場所で使用したとき、バランスを崩して転倒し、けがをする恐れがあります。
- 転倒により、本体が破損・変形する恐れがあります。

屋外では使用しないでください

- 路面の状態が不安定なため、転倒してけがをする恐れがあります。
- 路面の凹凸による衝撃や雨・風やほごりの影響を受けると、故障の原因になります。

使用前に日常点検（P.40）を行ってください

- 使用の頻度や環境によって摩耗・劣化した状態で使用すると、動作不良・故障の原因になります。
- 日常点検で異常を発見した場合は、使用を中止し、販売店または Hug サポートセンターまでお問い合わせください。

Hug L1 を視界が確保できていない状態で操作しないでください



- 本体と室内の壁や扉など建物の一部や家具などの間に挟まれて、けがをする恐れがあります。
- 本体が家具などに当たり、破損する恐れがあります。
- 飼育しているペットと衝突し、けがをする恐れがあります。
- 本体と周囲にいる人と衝突し、けがをする恐れがあります。

バランスを崩す可能性のある方は片足立ちにならないよう使用してください

- 体勢を崩して Hug L1 から転落・転倒してけがをする恐れがあります。

脱ぎかけのままなど、衣服が隙間に挟まれる可能性のある状態で使用しないでください

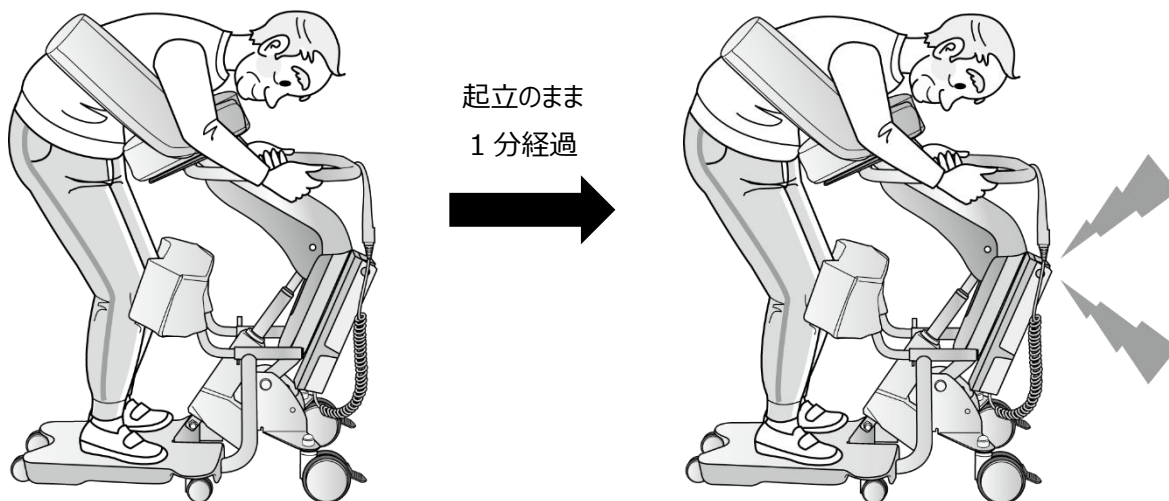
- 移乗動作をするときに衣服や靴が挟まれて、けがをする恐れがあります。
- Hug L1 を移動するときに衣服や靴が巻き込まれて、けがをする恐れがあります。

| | |
|---|---|
|  警告 | <p>Hug L1 に水などの液体をかけないでください</p> <ul style="list-style-type: none">• 水分が内部へ侵入し電気部品に付着すると、電気回路のショートによる故障・感電の原因になります。また、本体にさびが発生し、動作不良の原因になります。• 水などでぬらしてしまった場合は、水分をふき取り、風通しの良い場所で乾燥させてください。 |
|  注意 | <p>発疹・発赤、かゆみなど皮膚に異常が発生した場合、使用を中止してください</p> <ul style="list-style-type: none">• けがの原因になる恐れがあります。 <p>湿気の多い場所に長期間放置しないでください</p> <ul style="list-style-type: none">• 湿気の多い場所で使用した後は、風通しの良い場所で乾燥させてください。 |

起立アラームと節電モードについて

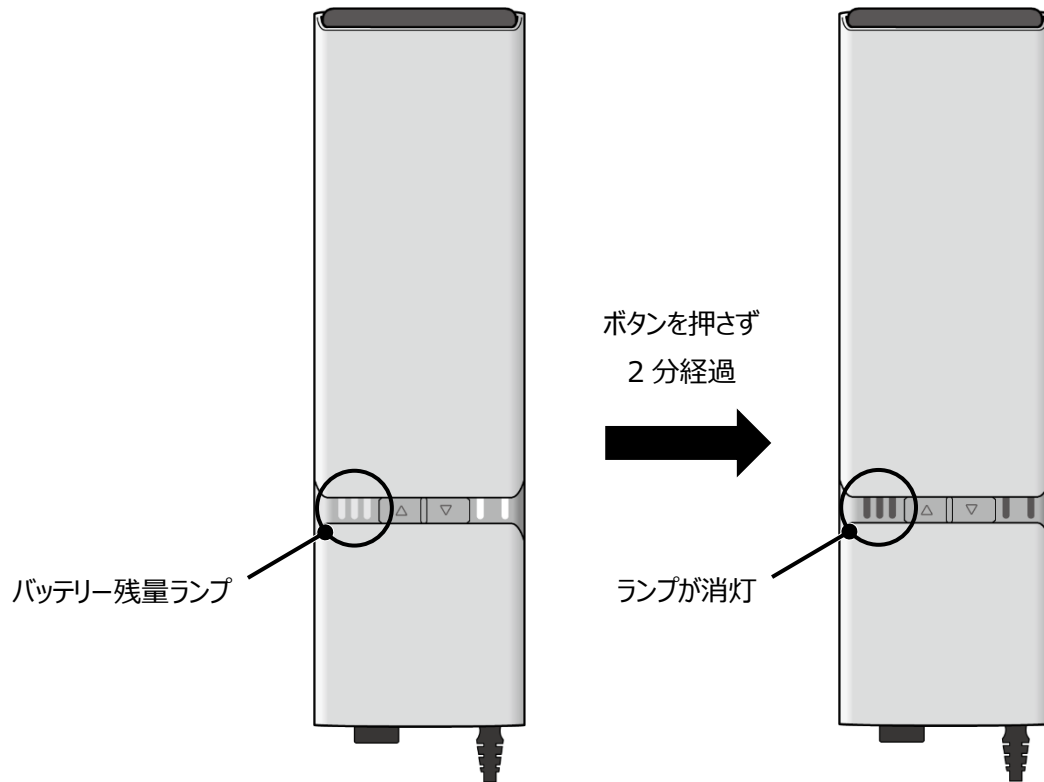
起立アラーム

介護を受ける方の立っている時間が長ならないように、お知らせする機能です。
起立状態で1分が経過すると、一度だけ長いブザー音が鳴ります。



節電モード

リモコンのボタン操作をした後、2 分間ボタンを押さない状態が続くと、節電のためすべてのランプが消灯します。
(節電モード)

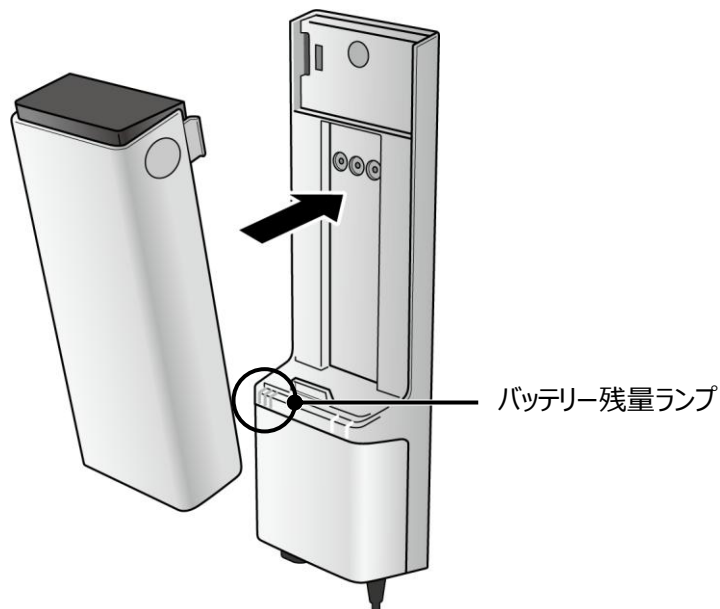


節電モードの状態ではリモコンのボタンを押すと、節電モードが解除され、ランプが点灯します。
リモコンのボタンを押し続けると動作が開始されますのでご注意ください。

準備する

1 バッテリーを本体に取り付ける

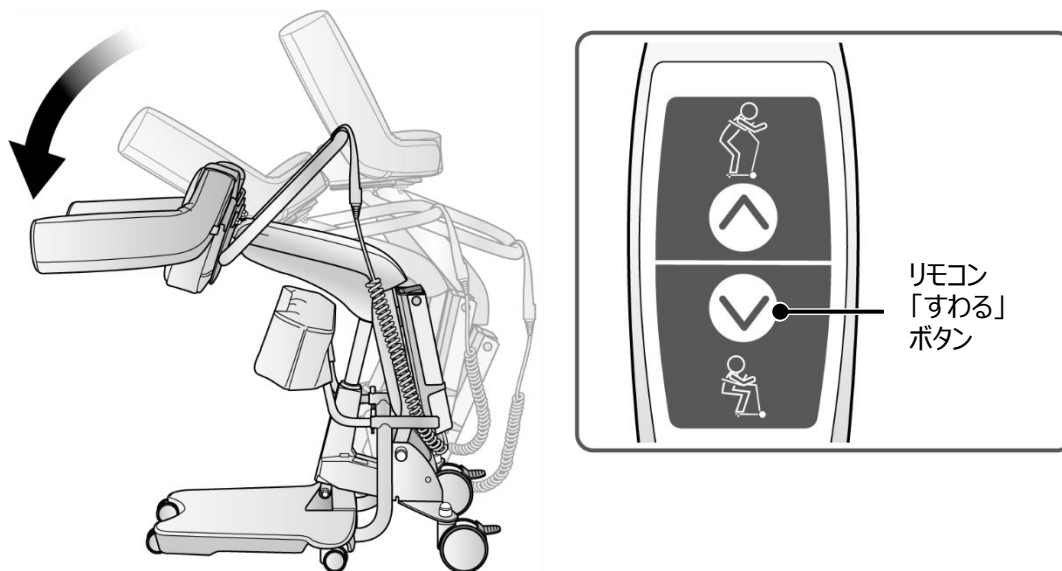
バッテリーが正しく取り付けられると、バッテリー残量ランプが点灯します。



2 動きが停止するまで、リモコンの「すわる」ボタンを長押しする

身体保持部が着座位置にあることを確認してください。

周辺に干渉するものがないことを確認してから、ボタンを操作してください。

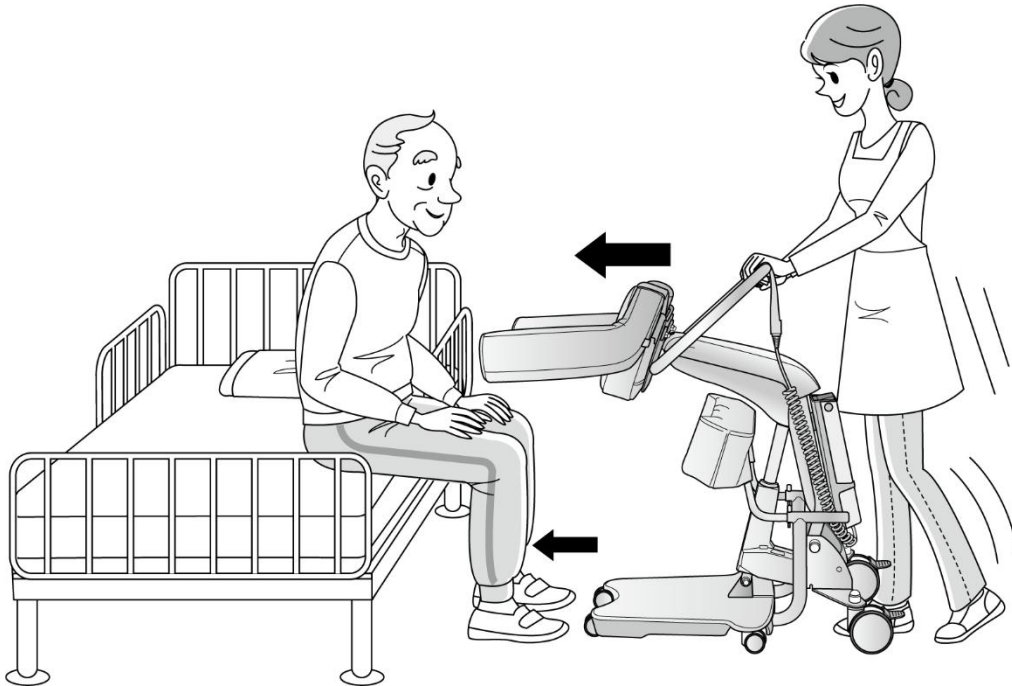


□メモ

リモコンを使用した後は、次の操作をしてください。

衝撃吸収機器（ダンパー）により、身体保持部の下降が遅い、または下まで下がりきらない場合は手で押し下げてください。

3 ハンドルを持って、介護を受ける方の足元までゆっくりと近づける



□メモ

ベッドから移乗させるときは、介護を受ける方の上体を起こし、ベッドの脇に座らせてから Hug L1 を移動してください。

乗せる



警告

最大使用者体重を超える荷重を加えないでください

- 転落・転倒してけがをしたり、本体が破損・変形したりする恐れがあります。
- 最大使用者体重は 100kg です。

1 介護を受ける方の両足をフットプレートに乗せる



2 介護を受ける方の上半身が身体保持部に触れるまで、ゆっくりと近づける

身長が高く、膝が身体保持部に接触して近づけることが出来ないときは、「たつ」ボタンを押して、身体保持部が膝に当たらない位置まで上昇させてください。



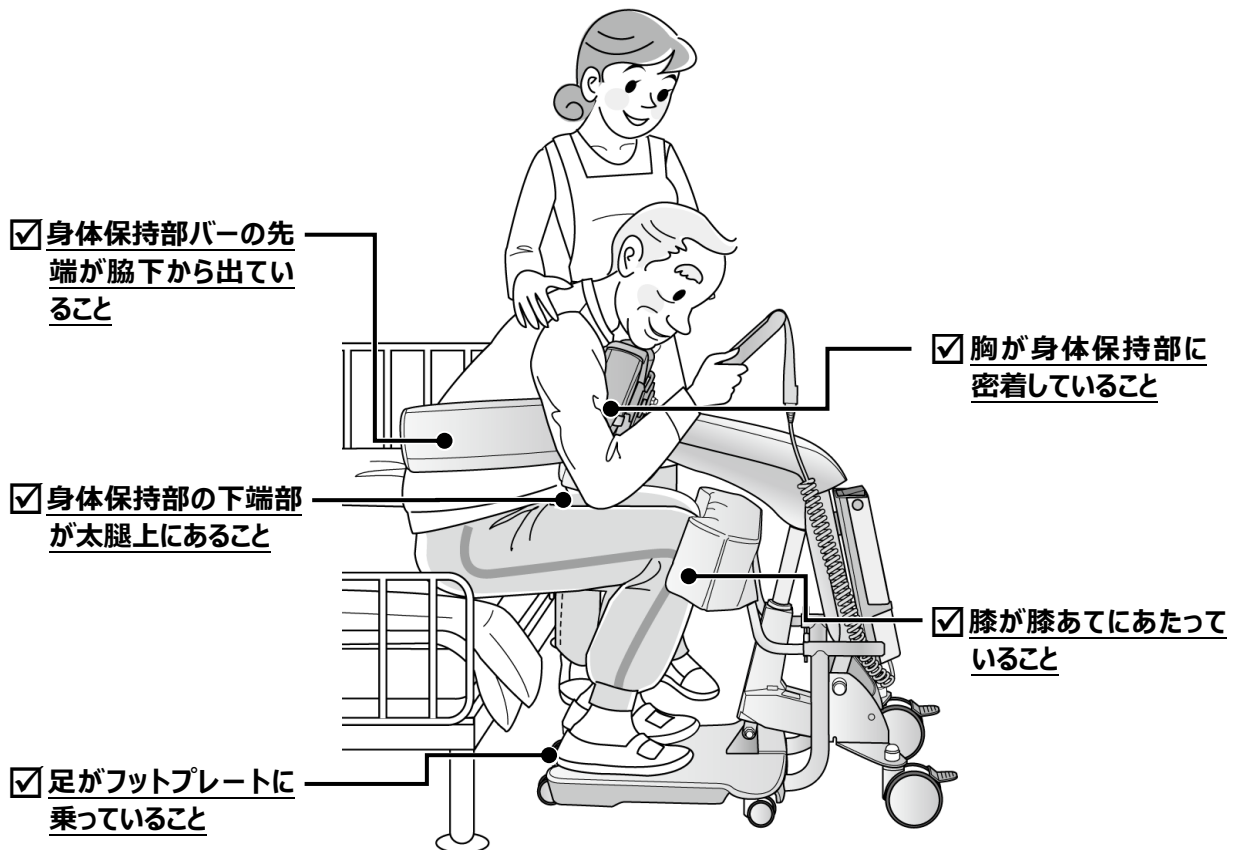
3 キャスターをロックし、身体保持部に体重が掛かるように、介護を受ける方の上体を乗せる

介護を受ける方に身体保持部バーを抱え込むようにして、ハンドルを握ってもらいます。

⇒「膝あての位置を調整する (P.21)」

〈準備姿勢〉

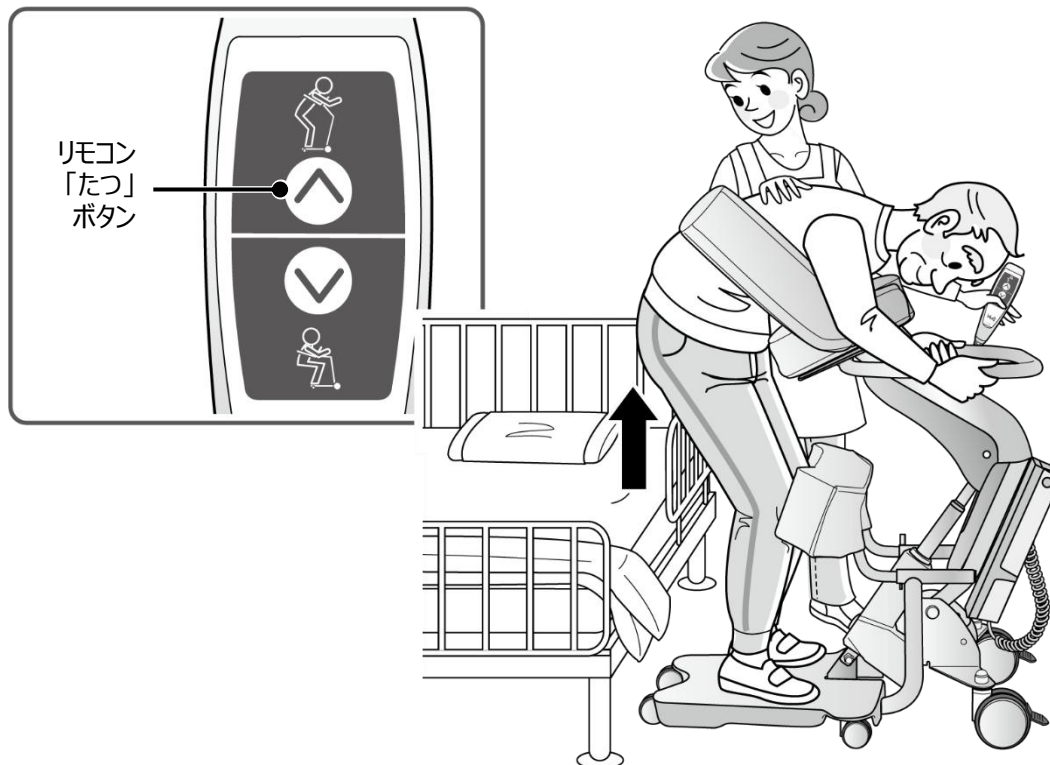
Hug L1 を操作する前に、介護を受ける方が正しい姿勢で身体保持部に乗っているかどうか確認してください。



| | |
|-------------|--|
| ⚠ 警告 | <p>介護を受ける方が身体保持部に正しい姿勢で乗っているか確認してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体保持部に正しい姿勢で乗っていないと、Hug L1 の動きに追従できず、転倒してけがをする恐れがあります。 ハンドルとカバーの間に頭が挟まれ、けがをする恐れがあります。 介護を受ける方の症状や状態によって、正しい姿勢が異なります。専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。 |
| ⚠ 注意 | <p>可動部のすき間に、手や指、毛髪などを挟まないようにしてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 移乗動作するときに手や指、毛髪などを挟まれて、けがをする恐れがあります。 |

4 リモコンの「たつ」ボタンを押して、介護を受ける方の上体を起こす

介護を受ける方の背中を軽く支えながら「たつ」ボタンを押します。「たつ」ボタンから指を離すと動きが停止します。動きを再開させる場合は、再度「たつ」ボタンを押します。



| | | |
|--------------------|---|---|
| <p>⚠ 警告</p> | <p>介護を受ける方の症状にあわせて使用してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 「たつ」ボタンを押すときは、介護を受ける方の身体状態、精神状態（恐怖を感じる時）にあわせて、上体を起こし過ぎないように注意してください。 介護を受ける方が Hug L1 の動作について来られず、肩が上がってしまっている場合は、無理やり立たせず、「すわる」ボタンを押して着座させてください。 | <p>A small illustration showing a person's back being supported by the Hug L1 device, demonstrating the lifting action.</p> |
| <p>⚠ 注意</p> | <p>介護を受ける方の顔に液体がかからないようにしてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 避けようとして体勢を崩し、Hug L1 から転落・転倒してけがをする恐れがあります。周囲と干渉しないように注意してください | |

| | |
|--|--|
| <p>□ メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> 操作を緊急停止させるときは、リモコンのボタンから指を離すか、非常停止ボタンを押してください。 リモコンを使用した後は、リモコンを本体に掛けてから次の操作をしてください。 | |
|--|--|

移動する

- 1** **キャスターのロックを解除し、ハンドルを持って、ゆっくりと移動する**
介護を受ける方の状態を確認しながら、移動します。

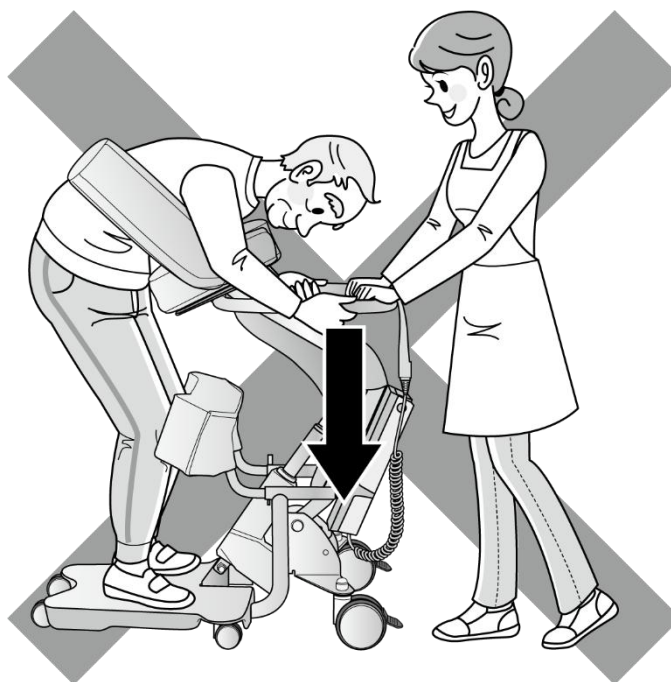


| | |
|--------------------|--|
| <p>⚠ 警告</p> | <p>介護を受ける方を乗せた状態で移動するときは、できるだけゆっくりと動かしてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 急停止や急加速すると、転落・転倒してけがをする恐れがあります。 操作をする人の足がすべり、体勢が崩れ転倒してけがをする恐れがあります。 <p>段差の乗り越え、スロープなど、傾斜や段差、凸凹がある場所では使用しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> キャスターが段差に引っ掛かると、急停止や強い振動が起き、転倒してけがをする恐れがあります。 スロープの傾斜がある場所で使用したとき、バランスを崩して転倒し、けがをする恐れがあります。 転倒により、本体が破損・変形する恐れがあります。 <p>介護を受ける方を乗せた状態で、長距離を移動しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒してけがをする恐れがあります。Hug L1 は移乗動作を支援する機器であり、長距離の移動には適していません。長距離の移動には、車椅子などを使用してください。 <p>介護を受ける方を乗せた状態で、長時間放置しないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒してけがをする恐れがあります。Hug L1 は移乗動作を支援する機器であり、長時間の立位保持には適していません。 <p>移動状態で介護を受ける方を降ろさないでください</p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒してけがをする恐れがあります。 <p>操作者が操作をする際は、ハンドルをしっかり握ってください</p> <ul style="list-style-type: none"> Hug L1 を動かそうとしたときに手がすべり、体勢が崩れ転倒してけがをする恐れがあります。 |
| <p>⚠ 注意</p> | <p>移動するときは、足もとに注意してください</p> <ul style="list-style-type: none"> 本体の下に足を挟まれたり、キャスターに足を踏まれたりして、けがをする恐れがあります。 <p>周囲と干渉しないように注意してください</p> |

警告

ハンドルに体重をかけないでください

- ハンドルは移動用の取手です。ハンドルに体重を乗せると、転倒してけがをする恐れがあります。
- 過大な荷重により、本体が破損・変形する恐れがあります。



Hug L1 を方向転換するときは、ハンドルを横から持つと回転しやすくなります。
身体保持部バーを持って回転すると転倒の恐れがあります。



膝折れなどによる後方への転倒の可能性がある場合は、介護をする方が介護を受ける方の後ろに回りこみ、ハンドルを持ちながら移動してください。

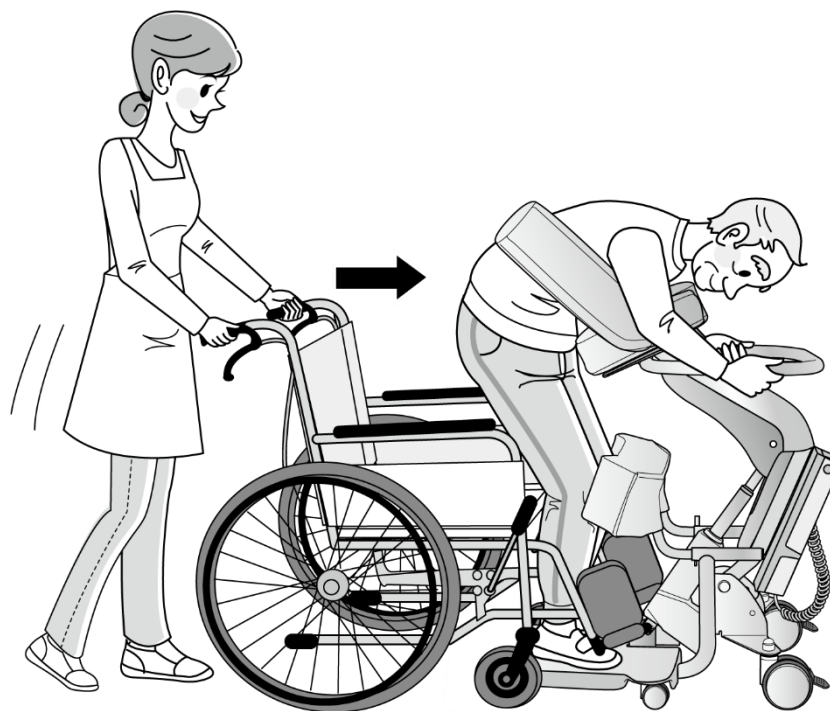


2 移動先の座面の前で一度停止し、座面の安全を確認する

移動先の座面に介護を受ける方を座らせても問題ないかどうか確認してください。



3 介護を受ける方の膝裏が移動先の座面に触れるまで調整をする
浅座りにならないように、状況に応じて移動先または Hug L1 を少しずつ動かして調整してください。



□メモ



- 移動先が動く場合（車椅子や椅子など）は、移動先を Hug L1 に近づけてください。また、移動先にキャスターがついている場合は、ロックをして動かないように固定してください。
- 移動先が動かない場合（ベッドやトイレなど）は、Hug L1 を移動先に近づけてください。

降ろす

1 キャスターをロックし、リモコンの「すわる」ボタンを押して、介護を受ける方の身体をゆっくりと降ろす

介護を受ける方が完全に座面に座ったことを確認するまで、「すわる」ボタンを押します。「すわる」ボタンから指を離すと、動きが停止します。動きを再開させる場合は、再度「すわる」ボタンを押します。



| | |
|---|---|
|  警告 | <p>座面に座ったことを確認したら、すぐに動作を停止させてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 停止しないと、身体保持部と座面の間で大腿部が挟まれてけがをする恐れがあります。 座面に座ったことを確認したら、「すわる」ボタンから指を離し、動作を停止させてください。 <p>介護をする方は、介護を受ける方が Hug L1 の座る動作に従うようにさせてください</p> <ul style="list-style-type: none"> 従わないと、身体保持部の跳ね上げ機構が急に回転してけがをする恐れがあります。 |
|  注意 | <p>周囲と干渉しないように注意してください</p> |

□メモ

- 操作を緊急停止させるときは、リモコンのボタンから指を離すか、非常停止ボタンを押してください。
- リモコンを使用した後は、リモコンを本体に掛けてから次の操作をしてください。
- リモコンの破損などにより「すわる」ボタンを操作できない場合、本体の緊急時動作ボタンを使用してください。

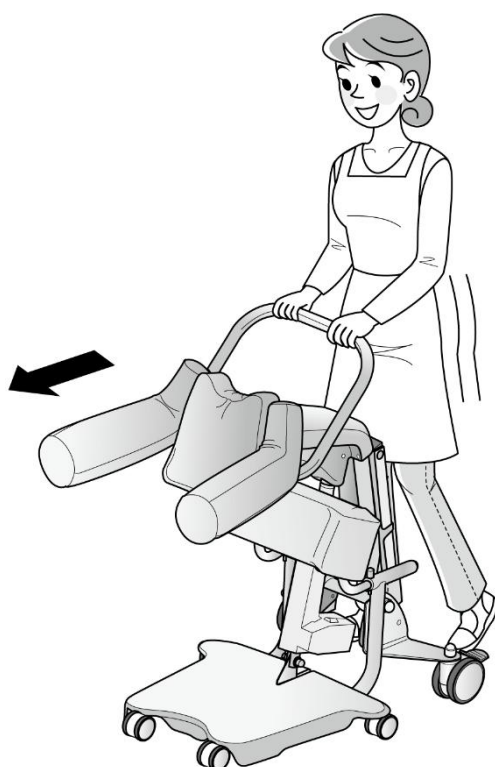
2 介護を受ける方の上体を起こし、両足をフットプレートから降ろす

両足を降ろすスペースがないときは、介護を受ける方から Hug L1 を少し離すなど調整をしてください。

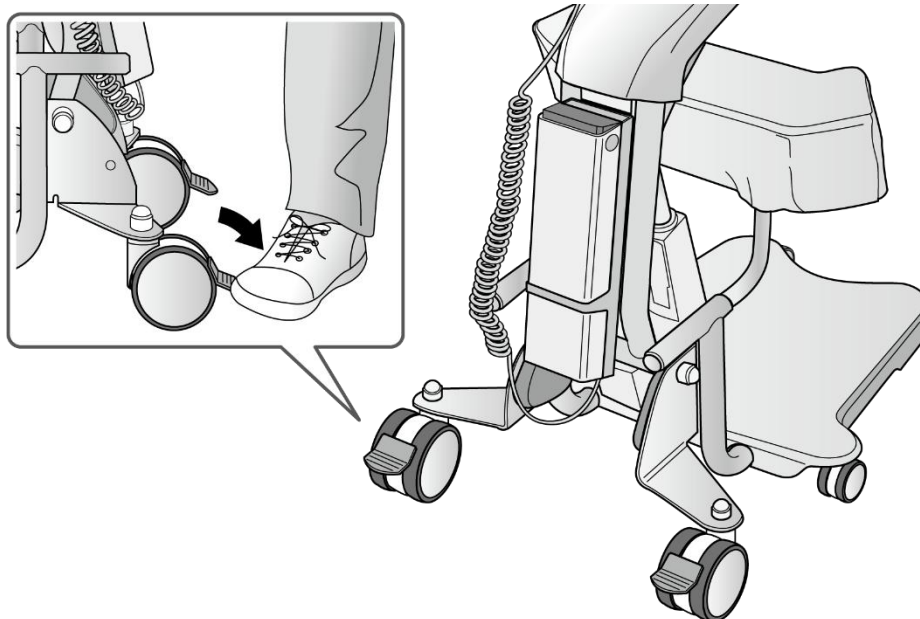


3 ハンドルを持って、保管場所に移動する

Hug L1 を手前に引き、方向転換をして、介護を受ける方から Hug L1 を離してから移動します。



4 キャスターをロックし、保管する



□メモ

使用後はバッテリーを長持ちさせるために、こまめに充電してください。

衝撃吸収機器（ダンパー）により、身体保持部の下降が遅い、または下まで下がりきらない場合は手で押し下げてください。

Hug L1 が動かないときは

「たつ」ボタン、または「すわる」ボタンを押した際に、エラー表示ランプ（P.46）が点灯し Hug L1 が動かなくなったときは、それぞれ次の操作を行ってください。

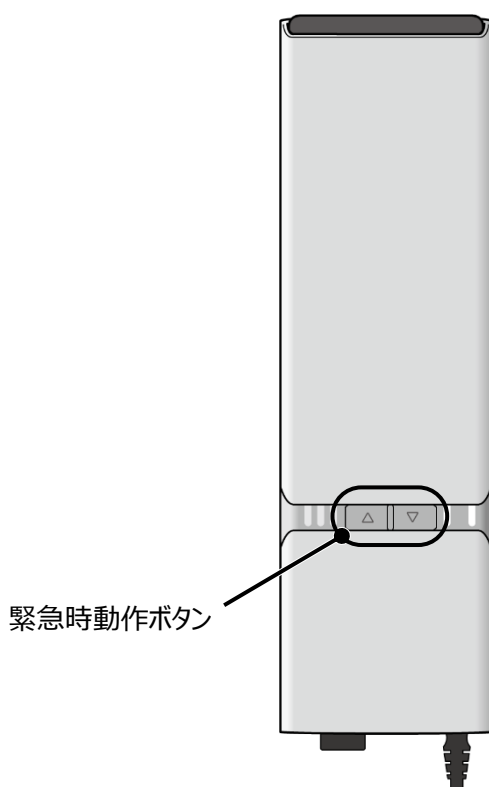
非常停止ボタンが押されている場合、バッテリーを一度取り外して非常停止状態を解除してください。

壁などに接触し、動作を妨げている場合、動作を妨げているものを排除してください。

連続使用でモーターが高温になっている場合、温度が下がるまで休ませてください。

それでも動かない場合は、販売店または Hug サポートセンターにお問い合わせください。

緊急時動作ボタン



リモコンが使えなくなった場合、本体の緊急時動作ボタンを使用して動作させることができます。

他の部品にも故障が発生していると、動かすことができない場合があります。

⚠ 警告

介護を受ける方を乗せている場合は、安全に降ろしてください

介護を受ける方を乗せた状態で、長時間放置しないでください

介護を受ける方を乗せた状態で操作をしないでください

- 本体が突然動き始めたときに、介護を受ける方がその動きに追従できず、転倒してけがをする恐れがあります。

異常な音がするときは使用しないでください

- そのまま使用すると、本体が破損し、感電・火災の原因になります。
- 転倒してけがをする恐れがあります。
- 販売店または Hug サポートセンターまで点検・修理を依頼してください。

メンテナンス

点検をする


警告

点検をする際には周辺に人がいないことを確認してください

- 点検者以外の方が Hug L1 を操作すると、挟まれてけがをする恐れがあります。

日常点検

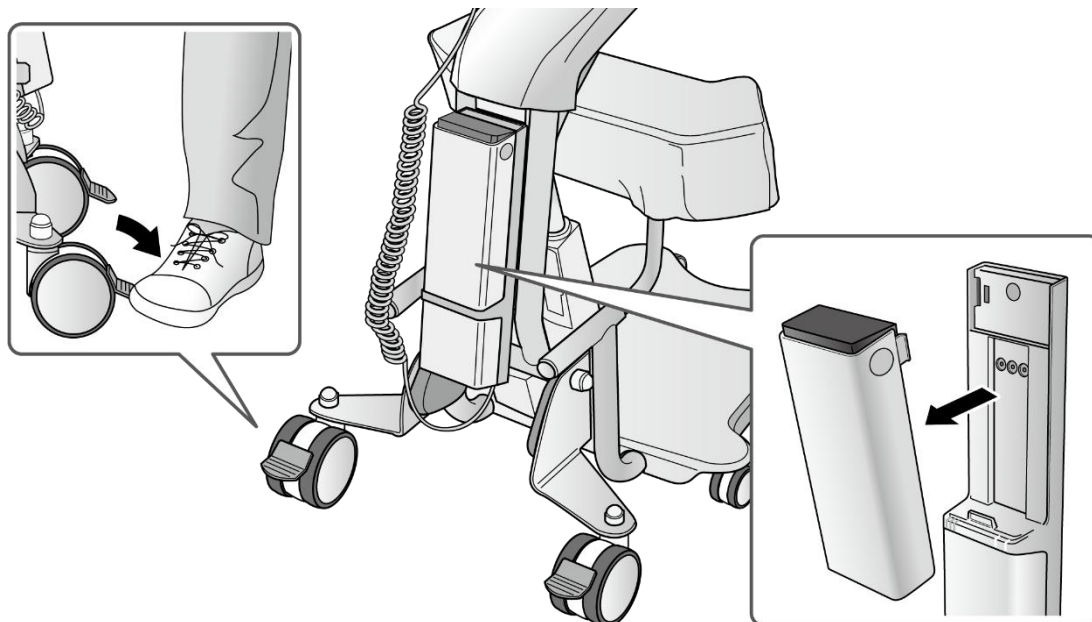
使用の頻度や環境によって摩耗・劣化しますので、毎回使用前に点検することをおすすめします。異常を発見した場合や詳しい点検をご希望の場合は、販売店または Hug サポートセンターまでお問い合わせください。

| No. | 点検箇所 | 点検項目 |
|-----|--------------|--|
| 1 | リモコン | 各ボタンの正常な操作ができること |
| | | リモコンのコードがキャストに絡まっていないこと |
| 2 | バッテリー | バッテリーの残量が十分にあること |
| 3 | 身体保持部 膝あて | クッション性が失われていないこと |
| | | 縫製にほつれがないこと |
| | | 面ファスナーが外れていないこと、粘着が弱くなっていないこと |
| 4 | 身体保持部バー | バーのがたつきがないこと |
| 5 | ハンドル | ハンドルのがたつきがないこと |
| 6 | キャスト | キャストの動きがスムーズなこと |
| | | キャストが正常にロックできること |
| | | キャストが床から浮いていないこと |
| 7 | 非常停止ボタン | 正常に動作すること (非常停止状態は、バッテリーを取り外すことで解除できます) |
| 8 | 本体 | 各部のボルトやナットにゆるみがないこと |
| | | 動作中に異音がしないこと |
| | | カバーに割れ、ヒビがないこと |
| | | スムーズに動作すること |

お手入れをする

1 キャスターをロックし、バッテリーを取り外す

本体が動かないことを確認します。



2 本体表面とリモコンを拭く

〈お手入れ方法〉

- ① 柔らかい布に水で薄めた中性洗剤を含ませ、かたく絞って拭きます。
- ② 水でひたした布をかたく絞って水拭きして、中性洗剤を拭き取ります。
- ③ 乾いた布でから拭きます。

〈消毒方法〉

消毒する場合は、必ず下記のいずれかの消毒剤を指定の濃度でご使用ください。
ご使用時には、各消毒剤の取扱説明書などの指示に従ってください。

- 76.9～81.4v/v% 消毒用エタノール
- 0.02～0.1% 次亜塩素酸ナトリウム（ハイターなど）

3 身体保持部と膝あてを拭く

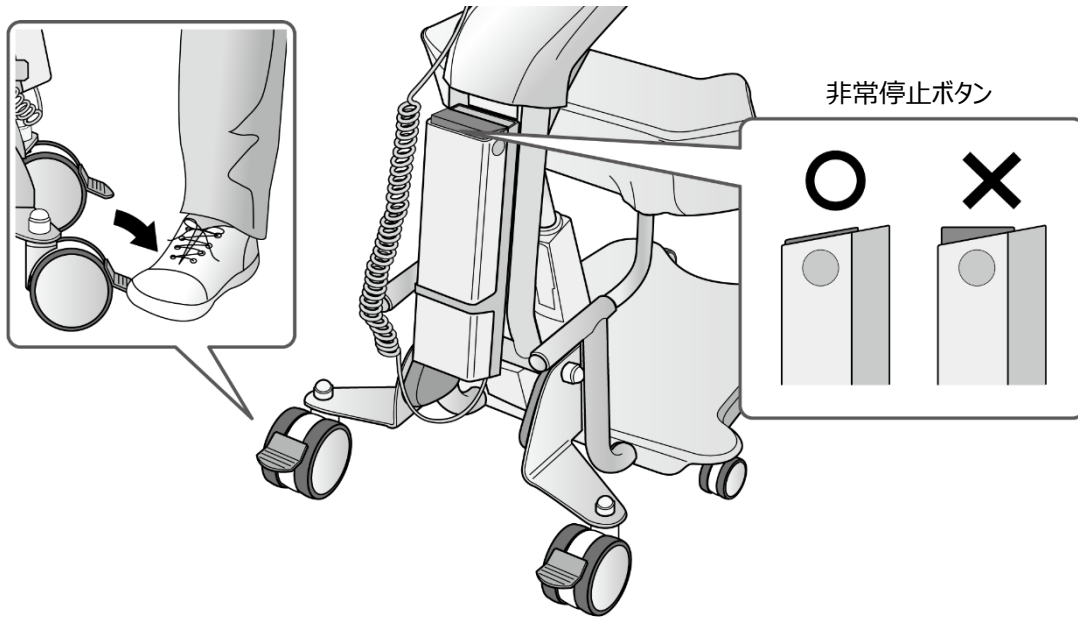
4 水分が完全に乾くまで待つ

身体保持部を交換する

身体保持部のクッション性がなくなってきた場合は、介護を受ける方の身体に負担がかかるため、交換してください。交換用の身体保持部については、販売店または Hug サポートセンターまでお問い合わせください。

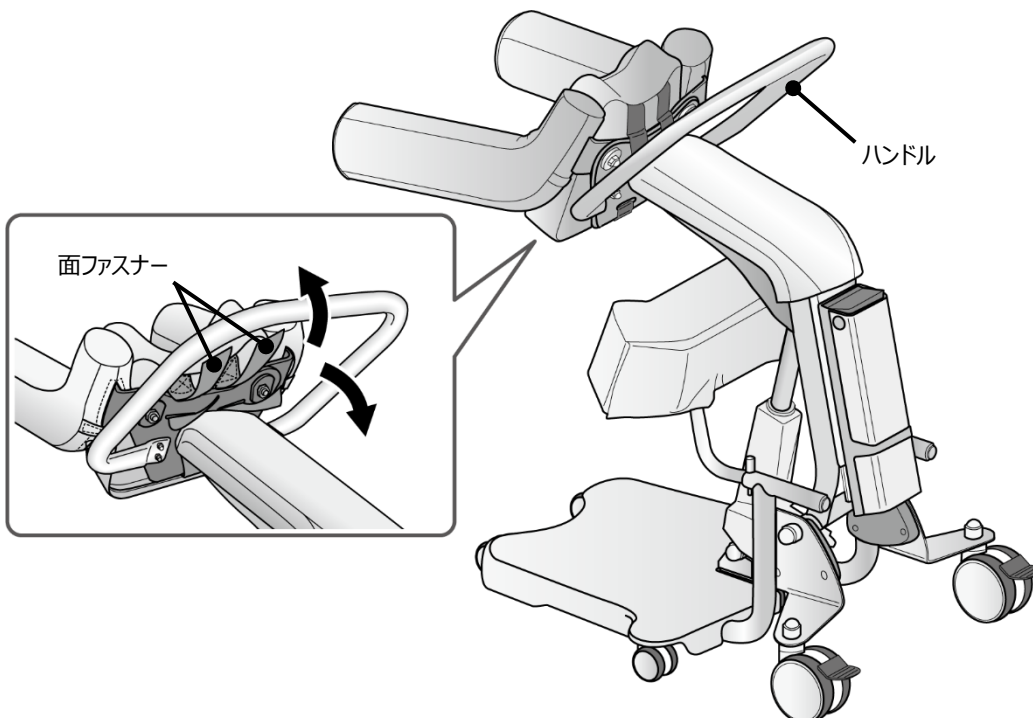
1 キャスターをロックし、非常停止ボタンを押す

本体が動かないことを確認します。



2 台座に固定している面ファスナーを外す

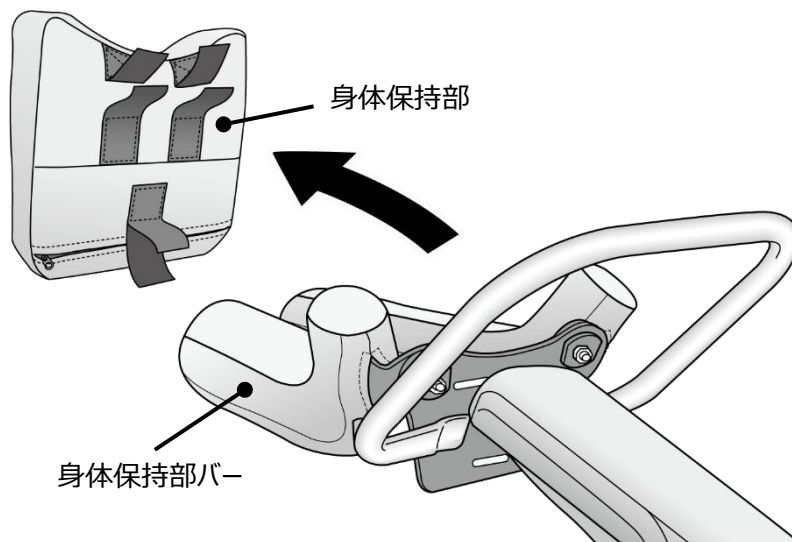
身体保持部の裏面と本体側は面ファスナーで固定されています。



3 身体保持部を手前に引き、取り外す

身体保持部の上部から少しずつ手前に引いて取り外してください。

身体保持部バーは固定されていないため、身体保持部を取り外すと内側に動きます。



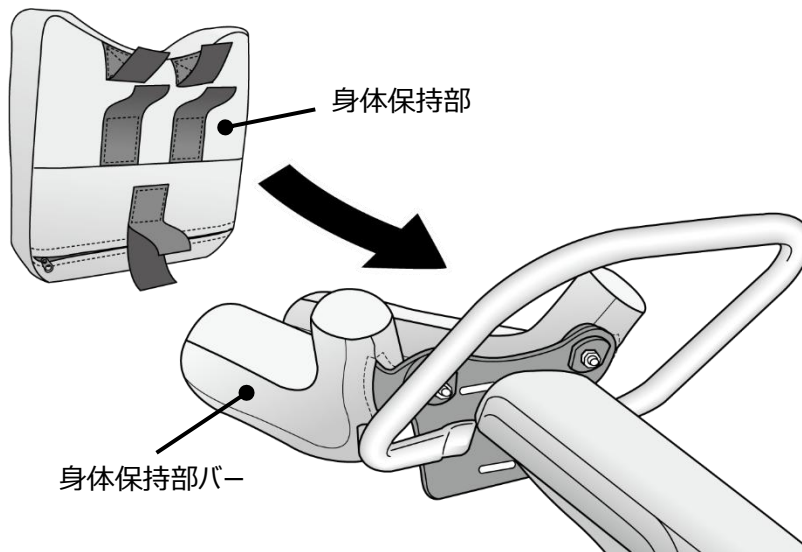
4 新しい身体保持部を準備する



弊社指定の製品を使用してください

- 指定以外の製品を使用すると確実な固定ができず、転落・転倒してけがをする恐れがあります。

5 身体保持部バーを左右に開いて、新しい身体保持部をバーの間に押し込む
身体保持部の裏面と本体側についている面ファスナーの位置を合わせてください。

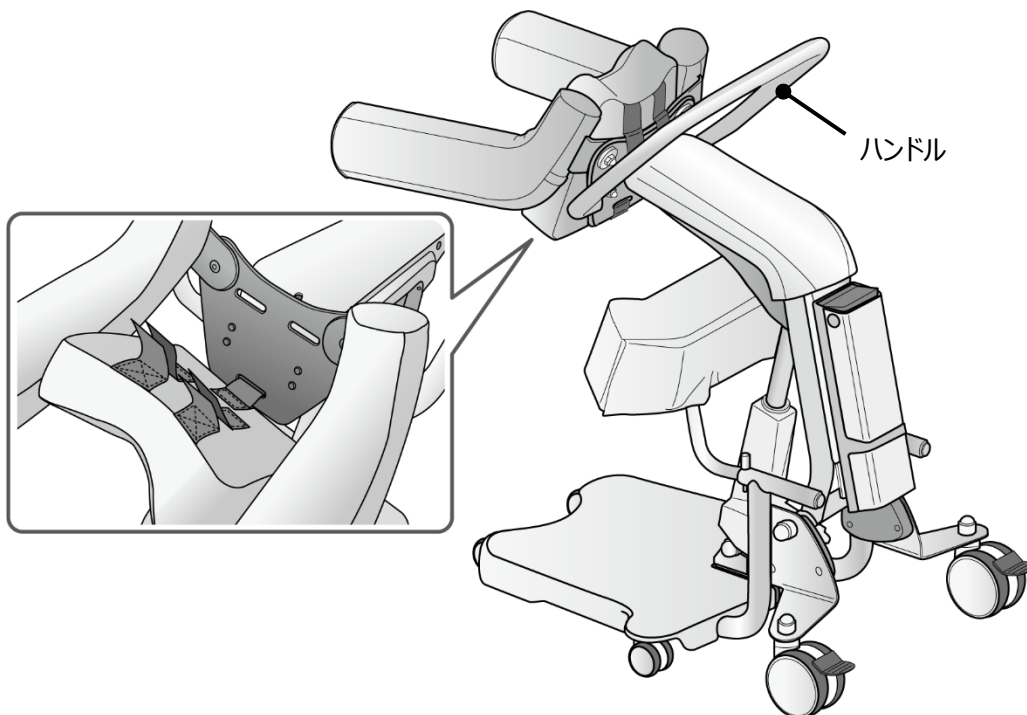


警告

Hug L1 に身体保持部を正しく装着し、固定してください

- 身体保持部の固定が正しくできていないと、転落・転倒してけがをする恐れがあります。

6 面ファスナーを台座に下から巻き込むように固定する



メモ

非常停止状態は、バッテリーを一度取り外すことで解除できます。

このようなときは

故障かな？と思ったときは

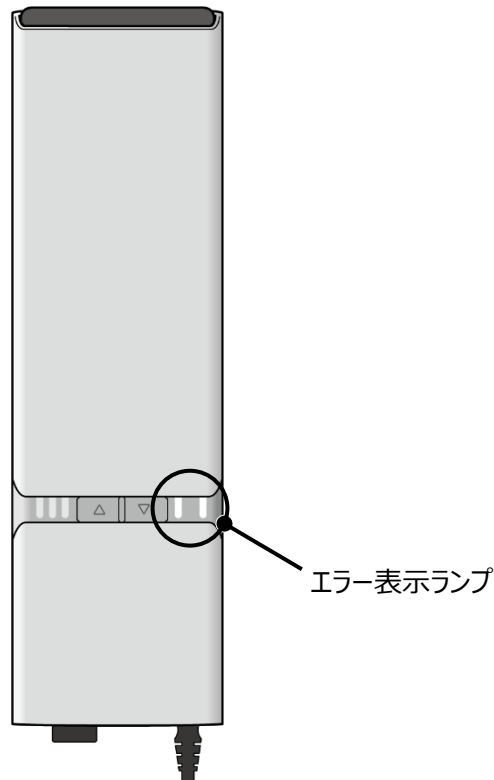
修理を依頼する前にもう一度ご確認ください。

| 症状 | 確認項目 | 対処方法 |
|-----------------------|----------------------|-------------------------------|
| リモコンのボタンを 押しても動かない | バッテリーの残量が少なくなっていますか？ | バッテリーを充電する。 充電方法 ⇒ (P.16) |
| | 非常停止ボタンが押されていませんか？ | バッテリーを一度取り外し、 非常停止状態を解除する。 |
| 充電できない | 充電器が正しく接続されていますか？ | 充電方法 ⇒ (P.16) |
| Hug L1 を 押しても移動しない | キャスターにロックがかかっていませんか？ | キャスターのロックを解除する。 |




ブザーが鳴る場合

- バッテリー残量少 ⇒ 動作開始時に短く1回鳴ります。
- 起立アラーム時 ⇒ 1分後に長く1度鳴ります。

エラー表示ランプが点灯する場合



エラー表示ランプの表示を確認する 〈エラー表示ランプの見かた〉

| 表示 | 色 | エラー内容 |
|---|-----------------|---|
|  | 橙 (左右両方点灯) | 非常停止ボタンが押された状態です。 (バッテリーを一度取り外すことで解除されます。) |
|  | 橙 (右がゆっくり点滅) | モーターに大きな荷重がかかっています。 (原因となる荷重を取り除いてください。) |
|  | 橙 (左がゆっくり点滅) | モーターの温度が高い状態です。 (使用を中断し、温度が下がるのを待ってください。) |
| その他の点灯・点滅 | | 販売店または Hug サポートセンターにお問い合わせください。 |

長期保管をするときの注意

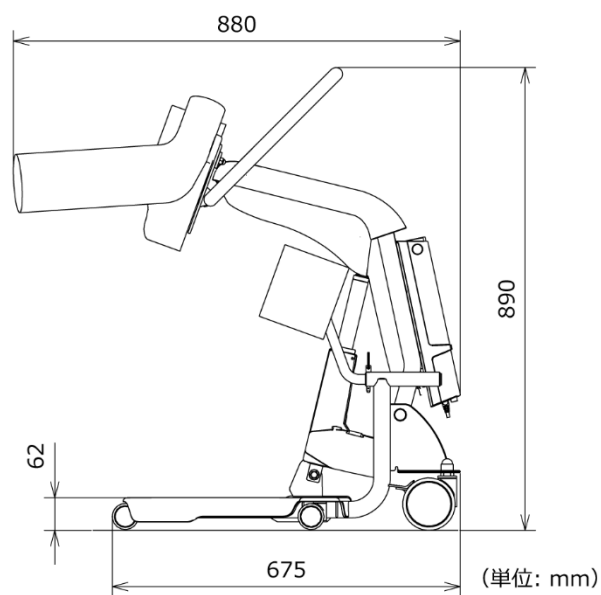
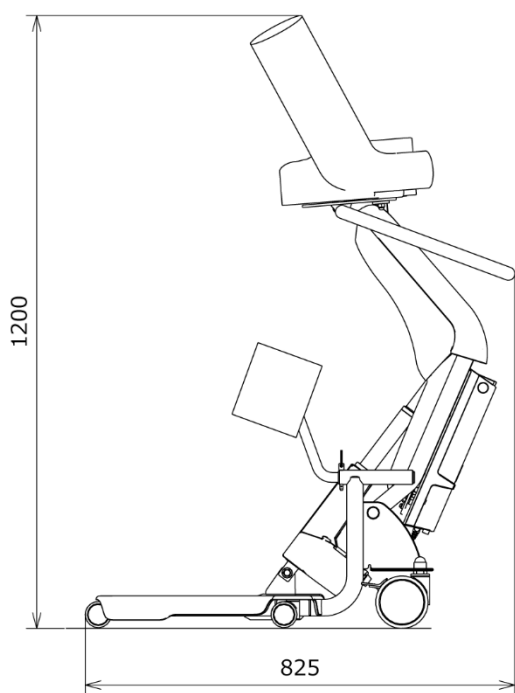
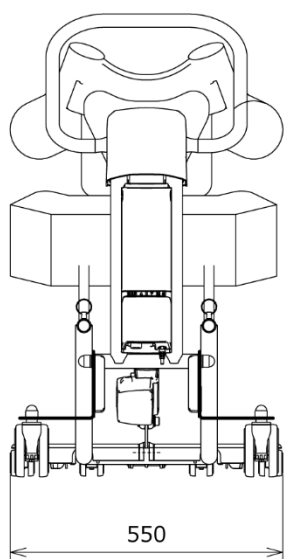
Hug L1 を長期間使用しないときは、以下の点に注意して保管してください。

- 高温、多湿、低温、乾燥、ほこりの多い場所を避け、屋内の直射日光の当たらない場所で保管してください。
- バッテリーは6カ月に一度は必ず充電してください。
- 保管の際は、完全に充電し、周囲の温度が低い場所で保管してください。バッテリーは自己放電しますので、使用を再開する前に必ず充電をしてください。

仕様

| | | |
|---------|--------------------------|------------------------------------|
| 製品名 | 移乗サポートロボット | |
| 機種名 | Hug L1 | |
| 型式 | L1-02 | |
| 総質量 | 30 kg | |
| 対応身長 | 140～180 cm | |
| 最大使用者体重 | 100 kg | |
| 充電器 | 電源電圧、周波数 | AC 100～240 V 50/60 Hz |
| | 消費電力 | 32-55VA (MAX 350mA) |
| バッテリー | 種類 | リチウムイオン電池 |
| | 充電回数目安 | 約 1000 回 |
| | 公称電圧、容量 | 25.7 V、2.85 Ah、73.25 Wh |
| | 最大動作回数 | 約 100 回 (1 回の充電で動作する回数、使用環境による) |
| | 充電時間 | 4 時間 |
| モーター | モーター形式 | DC モーター (永久磁石使用) |
| | 定格電圧 | DC 24 V |
| 騒音水準 | 65 dB 以下 | |
| 動作保証条件 | 温度 | 0～40 °C |
| | 湿度 | 20～90%RH |
| 適用規格 | 充電器 | CE、電気用品安全法 (PSE)、CSA |
| | コントロールボックス (バッテリー含) | CE |
| | アクチュエータ | CE |
| | リモコン | CE |
| 前輪キャスター | φ100 mm 双輪キャスター (ストッパー付) | |
| 後輪キャスター | φ50 mm | |
| 製造元 | 株式会社 F U J I | |

寸法図



保証とアフターサービス

保証書について

保証を受けるには、製品同梱の保証書（別紙）が必要です。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間はお買い上げの日から 1 年間です。

[修理規定]

《保証範囲》

取扱説明書、本体貼り付けラベルなどの注意に従った正常な使用で保証期間内に故障した場合に限ります。

《保証範囲外》

- 取扱説明書、本体貼り付けラベルなどの注意に従っていない使用での故障および損傷
- 火災、地震、水害、落雷、天災地変による故障および損傷
- 保証書のご提示がない場合

※保証書による保証は 1 年間、修理規定に示した条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。これによってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明な点がございましたら Hug サポートセンターまでお問い合わせください。

修理を依頼するときは

修理のご依頼は、お買い上げの販売店または弊社製品の修理受付窓口である Hug サポートセンターまでお問い合わせください。

■ 保証期間中は

保証書の記載内容に基づき、無償で修理させていただきます。ただし、保証期間内でも内容によっては修理が有償になる場合がございます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間が過ぎているときは

保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店または Hug サポートセンターにご相談ください。修理すれば使用できる場合は、ご希望によっては有償で修理させていただきます。

Hug L1 を廃棄するときは

Hug L1 を廃棄する際は、法令を遵守し廃棄してください。

修理・お取り扱い・お手入れについてご不明な点は

お買い上げの販売店または Hug サポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社 F U J I Hug サポートセンター

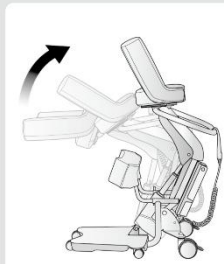
〒472-8686 愛知県知立市山町茶碓山19

TEL 0564-45-8969 平日 8:30~17:00

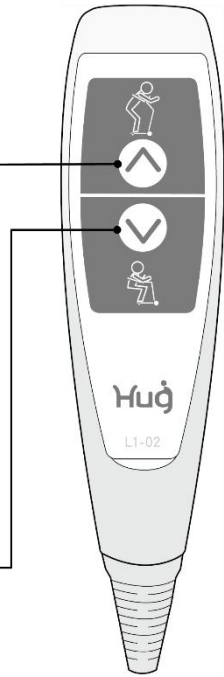
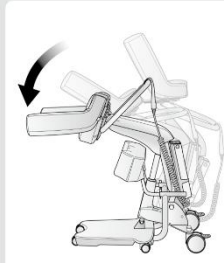
Hug かんたん使い方マニュアル

● リモコン操作

「たつ」ボタン
身体保持部が持ち上がります。

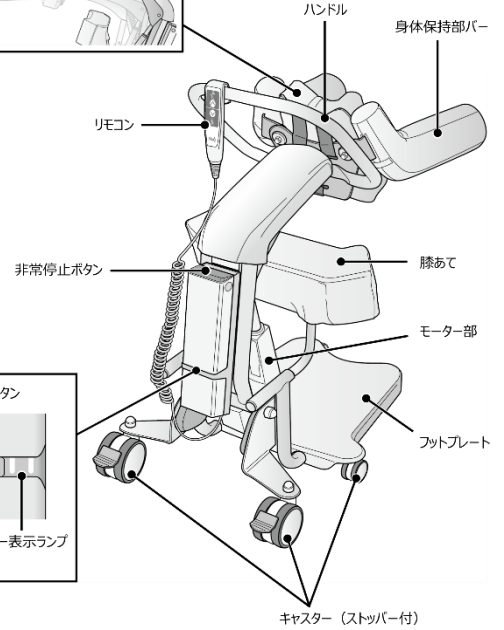
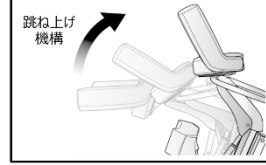


「すわる」ボタン
身体保持部が下がります。

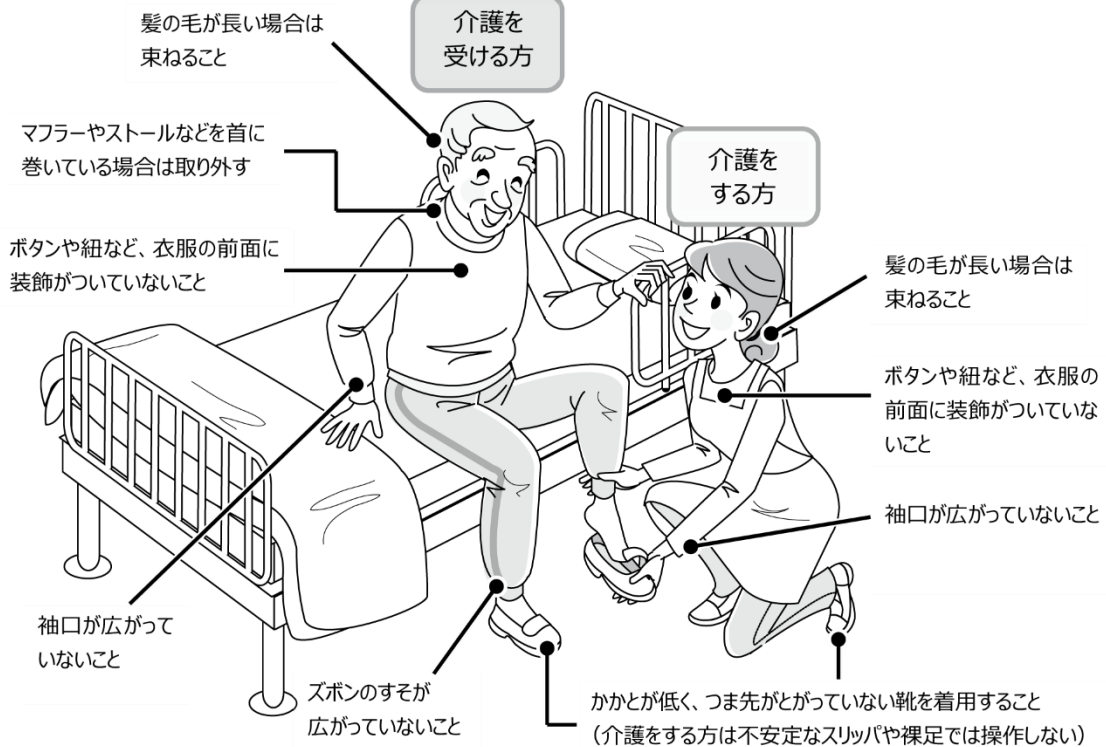


● 各部の名称

身体保持部



● 安全に使用するための服装



修理・お取り扱い・お手入れに関するお問い合わせ先

株式会社 F U J I Hug サポートセンター

TEL 0564-45-8969 平日 8:30~17:00



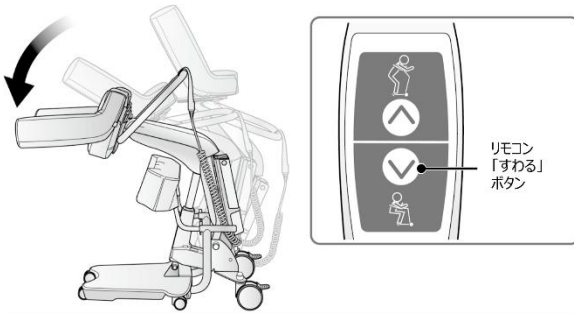
取扱説明書
使い方説明動画
はこちら ▶▶▶

取扱説明書はホームページからも
ダウンロードできます ▶ <https://hug.fuji.co.jp>



移乗の手順

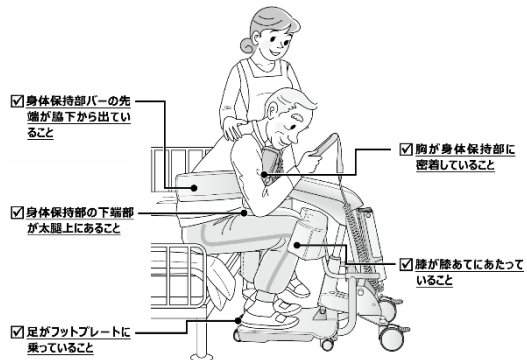
- ① 動きが止まるまで、「すわる」ボタンを長押しし、身体保持部を開始位置に移動する。



- ② 足裏をフットプレートに置き、さらに上半身が身体保持部に触れるまで近づける。



- ③ キャスターをロックし、身体保持部に体重が掛かるように、介護を受ける方の上体を乗せる。



- ④ 「たつ」ボタンを押して、起立する。身体条件に合わせて上げ過ぎないように注意。



- ⑤ ハンドルを持って、ゆっくりと移動する。後ろへ倒れる恐れがある方は後ろに回りこむ。



- ⑥ 介護を受ける方の膝裏が移動先の座面に触れるまで調整する。



- ⑦ 「すわる」ボタンを押して座らせる。浅座り防止に車椅子の位置を介護を受ける方側に調整する。



- ⑧ 介護を受ける方の上体を起こし、両足をフットプレートから降ろす。



修理・お取り扱い・お手入れに関するお問い合わせ先

株式会社 F U J I Hug サポートセンター

〒472-8686 愛知県知立市山町茶碓山19

TEL 0564-45-8969 平日 8:30~17:00